

授業名	保育学	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎山上 裕子		
開講期			
授業の概要	「保育原理」「教育原理」で学修した内容を基礎にした講義を行う。内容は、母性、子どもの権利、自己実現、コミュニティーなどのトピックにおいて、コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、フレーベル、マスロー、デュエイ等の教育思想を取りあげる。方法は、講義に加え、議論を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①現代の保育の在り方を考えるため、過去の保育思想を理解できたか。 ②授業で取りあげられたトピックについて、多くの議論が積み重ねられてきたことを理解できたか。 ③他の受講生との議論をととして、多様な見方や考え方ができたか。		
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 50% レポート50%
テキスト	特に指定しない。		
参考書	適宜、授業で紹介し、資料を配布する。		
学生への要望	自身の問題意識と関連付けて受講されることを望みます。		
位置付け・水準	ES2101		
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」		
オフィスタイム	火、金 14:40～16:10 833研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業内の議論		
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。「保育原理」「教育原理」で学修した人物の思想について振り返る。	シラバスを通読し、「保育原理」「教育原理」で学修した人物を振り返る。	60
2	保育における母性の語られ方①	母親という概念枠組みから解放された意味での母性について、コメニウスやペスタロッチらが母親そして母性をどのように語っているかを学ぶ。	資料を読む。	60
3	保育における母性の語られ方②	キンダーガルトン創始者のフレーベルが、母性をどのように語っているかを学ぶ。	資料を読む。	60
4	保育における母性の語られ方③	これまでの授業内容から、保育において母性をどう考えたらよいか。家庭の役割や意味との関連から受講生同士で議論をし、ミニレポートにまとめる。	議論をまとめる。	60
5	啓蒙思想と教育	理性の力に信頼をおく啓蒙思想家たちが、教育にどのような意味を見出してきたのか。ルソーの『エミール』から、守られるべき存在から主体として生きる人間教育について学ぶ。	資料を読む。	60
6	子どもの権利と学校教育制度	近代化が進むにつれて、児童労働、貧困などの社会問題が生じていくなかで、近代学校教育制度が整備され、識字率が上昇したことを学ぶ。	資料を読む。	60
7	セツルメント活動と保育①	イギリスに端を発するセツルメントと保育との関連を、イタリアのマリア・モンテッソーリによる「子どもの家」の実践をととして学ぶ。	資料を読む。	60
8	セツルメント活動と保育②	セツルメント活動の取り組みから生まれてきた保育について、ジェーン・アダムズのハルハウスの実践や日本の紙芝居などを取りあげる。	資料を読む。	60
9	子どもの権利と保育	これまでの授業内容から、子どもの権利に関わる取り組みについて議論し、ミニレポートにまとめる。	議論のまとめる。	60
10	教育における自己実現	何に価値を求めるかによって人は生き方が変わる。マスローの欲求の段階を学び、教育で語られる自己実現について学ぶ。	資料を読む。	60
11	遊びという至高経験	マスローは自己実現を至高経験において最も高く、深くなされるといい、子どもにおいてそれは遊びにみられるという。遊びにみられる至高経験について学ぶ。	資料を読む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	コミュニティと教育	民主主義社会の教育において、コミュニティという観点を示したデューイ。コミュニティの観点と教育の関連について学ぶ。	資料を読む。	60
13	道徳性の芽生え	コミュニティの一員としての道徳性の芽生えとみられる事例をデューイの『学校と社会』から取りあげ、具体的な子どもの活動から道徳性の芽生えについて学ぶ。	資料を読む。	60
14	保育におけるコミュニティの 実践	これまでの保育活動（実習含む）等において、道徳性の芽生えとみられる子どもの姿を、受講生同士で紹介しあい、今後の保育のあり方を議論する。	議論をまとめる。	60
15	まとめ	これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめ、解説を受ける。	議論をまとめる。	60

授業名	保育学特論Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎安部 高太郎		
開講期	Ⅰ期		
授業の概要	<p>【授業の目的及び内容】</p> <p>この授業では、「保育者論」で学んだ事項を基盤として、保育をとりまく現代日本社会の変化を考慮しつつ、保育者の役割や資質能力、専門職としての職務内容について理解を深めることを目的とする。さらに、協働的に働く保育者の適性を身につけるために、テーマに即したディスカッション等のアクティヴ・ラーニングの手法を用い、他者と共に保育学の知見を活かして物事を考察する力をつける。</p> <p>【課題に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業ノートによって授業参加度を見る課題に対するフィードバックは、授業ノートに担当教員からコメントを記入する形で行う。最終レポート課題に対するフィードバックは、第15回に授業のまとめの講義の際に、個別に担当教員からコメントを伝える時間を設ける形で行う予定である。</p>		
授業の到達目標	<p>本科目においては、次の三つの達成目標を定める。</p> <p>(1) 現代日本社会の変化に対応した保育の在り方について理解する。</p> <p>(2) 保育に関する諸問題について、保育学の知見を用いて自分なりに考察する。</p> <p>(3) 保育者の専門性について理解を深め、チーム保育等の形態について知り、協同して職務に当たることの意義をつかむ。</p> <p>●単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。</p>		
履修条件	原則として、幼稚園教諭一種免許取得希望者。	成績の 評価方法・基準	①授業参加度(受講態度やノートの記載状況)：50% ②レポート課題(第13回に回収予定)：50% 上記の①・②の合計：100%
テキスト	白石崇人(2015)『保育者の専門性とは何か(改訂版)』、社会評論社 ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。		
参考書	厚生労働省編(2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』、フレーベル館 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』、フレーベル館		
学生への要望	<p>本科目を受講する学生には以下のことを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席、遅刻はしないこと。</li> <li>・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。</li> <li>・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。</li> </ul>		
位置付け・水準	ES2102		
ディプロマポリシーとの関係	社会貢献力、キャリア形成力		
オフィスタイム	<p>・火曜日Ⅳ限(14:30~16:00)</p> <p>・火曜日Ⅴ限(16:10~17:50)</p> <p>いずれも、83年館2階の安部研究室(821研究室)とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメールで連絡を入れること。</p>		
アクティブラーニング実施内容	ほとんど全ての授業回で、ディスカッションの時間を設ける予定である。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の実習等の経験等から、保育者の役割や機能について考察する。	実習等を通して得られた自分なりの理想とする保育者(幼稚園教諭・保育士等)イメージを言語化し、そのような保育者となるにはどのような力や技能が必要であるかを考える。	30
2	保育者の役割及び資質・能力	保育者として求められる役割や資質・能力について理解する。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第6章を読み、要点をノートに書き出す。	60
3	保育者の職務内容と倫理	保育者の職務内容と倫理について、全国保育士会倫理綱領などから学ぶ。	全国保育士会倫理綱領を読み直し、保育者の職業倫理の要点をノートに書き出す。	60
4	保育者の制度上の位置づけ：幼稚園教諭の場合を中心に。	保育者の制度上の位置づけについて、教育職員免許法等を参照して学ぶ。	教育職員免許法等の関連法案について、e-Govにて最新版の法令について調べたうえで、関連する条文の内容をノートに整理する。	60
5	家庭との連携・保護者支援	保育者の役割としての家庭との連携・保護者支援について理解を深める。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第6章を読み、要点をノートに書き出す。	60
6	保育者の専門性	保育者の専門性について、特に保育者の援助に着目して整理する。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第1章・第6章を読み、要点をノートに書き出す。	60
7	保育のリフレクション	保育学の知見を用いて、保育者が行うリフレクションとは何かを考える。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第6章を読み、要点をノートに書き出す。	60
8	保育に対する評価	保育における評価と子ども理解の関わりについて考える。 ※レポート課題の提示。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第3章を読み、要点をノートに書き出す。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	保育の計画	保育における計画の意義について学ぶ。	教科書『保育者の専門性とは何か』の第3章を読み、要点をノートに書き出す。	60
10	保育者間の連携：チーム保育・同僚性	保育における職員間の連携について、チーム保育や同僚性という観点から理解を深める。	チーム保育・同僚性に関して『発達』誌上の特集記事などを基にしながらノートに整理する。	60
11	小学校教育との接続	他の専門機関との連携・協働に関して、小学校との連携・協働を中心に具体的につかむ。	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムについて調べ、ノートに整理する。	60
12	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育における子どもの育ち	幼保一元化と小学校教育との接続に関して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に即して理解を深める。	参考書『保育所保育指針解説』等で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べ、要点をノートに書き出す。	60
13	園内研修	保育者のキャリア形成に係る園内研修の意義について知る。 ※レポート課題の提出〆切。	園内研修について関連する論文等を探して読んでおき、どのような議論があるのかを知っておく。	60
14	キャリアアップ研修	保育士等キャリアアップ研修に見る保育者としての成長について考える。	キャリアアップの研修テキストなどを眺め、保育者としてのキャリア形成とはどのようなイメージをつかんでおく。	60
15	まとめ	レポート課題の成果を踏まえた全体的なフィードバックを受ける。	ノートを整理し、これまでの学習内容を復習しておく。	60

授業名	保育学特論Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	育について学問的に問うための、基本的考え方や理論を学びます。具体的な内容は、保育という用語について、先人たちの保育についての思想、学としての研究方法、保育環境などです。テキストの講読、そしてそれに関わる議論をとおして、保育を問うスキルも同時に磨いていきます。レポート提出後は、フィードバックを受け、それまでの学びを確かめます。			
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①保育を問うための基本的な考え方を理解できたか。 ②授業で取りあげられた項目について、議論できたか。			
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 50% レポート50%	
テキスト	日本保育学会編『保育学講座Ⅰ 保育学とは一問いと成り立ち』東京大学出版会、2016年			
参考書	適宜、授業で紹介し、資料を配布する。			
学生への要望	自身の問題意識と関連付けて受講されることを望みます。			
位置付け・水準	ES2103			
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」			
オフィスタイム	火、金 14:40～16:10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業での議論			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。これまで学んできた保育の授業について振り返る。	シラバスを通読し、これまでの学びを振り返る。	60
2	子育てと保育①	テキストの第一章「子育てと保育」について、対話をしながら内容を理解する。	テキストを読む。	60
3	子育てと保育②	人間形成の考え方を学ぶ。理解したことを言葉で表現し、考えたことや疑問に思ったことを議論する。	テキストを読む。	60
4	保育という語の成立と展開①	保育という言葉の始まり、それに関わる議論について学ぶ。	テキストを読む。	60
5	保育という語の成立と展開②	保育と教育をめぐる問題について、これまでの議論を学び、考えたことや疑問に思ったことを議論する。	テキストを読む。	60
6	まとめ①	これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめる。	テキストを読む。	60
7	倉橋惣三の保育の思想	倉橋惣三の保育の考え方を学ぶ。	テキストを読む。資料を読む。	60
8	津守眞の保育の思想①	津守眞の保育の考え方を学ぶ。倉橋と比較して、理解をふかめる。	テキストを読む。	60
9	津守眞の保育の思想②	津守の子どもを理解する方法を学ぶ。	資料を読む。	60
10	まとめ②	倉橋と津守の保育の考え方について、議論をとおして考察し、レポートにまとめる。	議論をまとめる。	60
11	保育の実践と保育の方法	社会環境の変化にともなう保育実践への影響について学ぶ。	テキストを読む。	60
12	保育環境と施設	保育環境としての施設の変遷について学ぶ。	テキストを読む。	60
13	砂場と子ども	砂場という環境をとおした保育の意味について考える。	資料を読む。	60
14	保育の質	保育の質の考え方を学ぶ。	テキストを読む。	60
15	まとめ③	これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめる。	これまで学び考えてきたことをまとめる。	60

授業名	保育課程特論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎賀門 康博			
開講期				
授業の概要	この授業では、基本的には理論をもとにしつつ、実際の保育現場におけるカリキュラムマネジメントの在り方について学修していく。教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況の評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）と示されている点からも、園の組織と共に保育者自身が教育課程を編成していく事が重要であり、授業を通してその力を身につけていく。 実務経験（賀門康博）：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 〃（奥美代）：幼稚園教諭（現在は副園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準 ES2104			
授業の到達目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「問題発見・解決力」と「キャリア形成力」に対応している。 乳幼児の発達や興味・感性、その背後にある社会環境や生活の流れへの理解を深めながら、子ども達が充実感を持って活動出来る保育課程(カリキュラム)作成への理解を深めつつ、実践事例とその考察を行って、実践力を高めていく。保育課程への考察、作成などの学習を通じ、発達の連続性や保育者としての役割・責務を把握していく。 ①保育におけるマネジメントの意味とその意義について理解できたか。 ②カリキュラムマネジメントにおけるPDCAの意味とその意義について理解できたか。 ③実践例などを元に、保育の各場面におけるカリキュラムマネジメントの実際について理解が深まったか。 単位認定の最低基準：「内容の7割を理解していること」			
履修条件	原則として、幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度30% 試験70%	
テキスト	なし(適宜資料配付)			
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ・池田幸代、田中謙編著『マネジメントする保育・教育カリキュラム』（教育情報出版） ・松本峰雄監修、浅川蘭子他著『保育の計画と評価 演習ブック』（ミネルヴァ書房）			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 保育における「乳幼児の発達」と「ねらい・方法」の関係を意識し、授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
位置付け・水準	位置づけ・水準 ES2104			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	実務経験（賀門康博）：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 〃（奥美代）：幼稚園教諭（現在は副園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（本授業の概要等について）	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。 また、保育課程を考える時に重要な「乳幼児の発達」と「興味・関心」「社会環境」について、保育現場としての基本的な考え方について知る。	これまでの学修内容やニュースなどから、現代の保育を取り巻く環境や問題について考えておく。	30
2	社会状況との関係から考える保育3法令の変遷の歴史について	保育3法令の意味について改めて確認するとともに、その背景にある社会的な意義や目的について知り、自分なりに考えてみる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	30
3	乳幼児期における「生きる力」と育みたい資質・能力について	前回の授業内容等を元にしなが、現代を生きる子ども達にとって必要な資質を知り、その重要性について考察をしていく。	「認知能力」「非認知能力」「10の姿」というキーワードの意味について改めて復習し、それぞれの実践場面についてイメージする。	30
4	保育における「カリキュラム」の考え方について	保育現場におけるカリキュラムの位置づけを知り、子ども達に寄り添った保育の在り方について考える。	保育実践とカリキュラムの位置づけについて、これまでの学修内容を振り返り概観しておく。	30
5	保育における「カリキュラムマネジメント」の意義とその範囲について	カリキュラムマネジメントについての見方やポイントや、マネジメントにおいて重要な振り返りや省察の技法などについて知る。	これまでの自らの実習経験を振り返り、客観的に保育を振り返る姿勢や視点を概観する。	30
6	PDCAサイクルに基づくカリキュラムマネジメントとは	カリキュラムマネジメントを行う考え方の一つであるPDCAを理解するとともに、その活用の仕方について学ぶ。	PDCAという技法について予め調べるとともに、保育におけるPDCAの意義を考える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	保育の記録と省察（１）～保育における様々な記録とその意味～	保育計画において根本となる子どもの読み取りについて、その基礎となる記録の仕方とその意味について改めて確認するとともに実践的な演習を行う。	保育実践における省察に活用できる記録とは何かについて、これまでの学修内容等から概観する。	30
8	保育の記録と省察（２）～記録からの省察について～	前回の授業を元に、記録から指導計画に繋がる子どもの姿の読み取りについて演習を行い、振り返り(省察)の考え方について学ぶ。	前回の授業内容について復習を行うとともに、省察に活かせる記録の要素などについて考える。	30
9	幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（１）	これまでの保育計画や教育課程についての学びから、保育場面におけるカリキュラムマネジメントの実例を元にその意味について検討を行う。（主に0～2歳）	0～2歳児の保育内容について、自らの実習などの経験を想起し、振り返りを行う。	30
10	幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（２）	これまでの保育計画や教育課程についての学びから、保育場面におけるカリキュラムマネジメントの実例を元にその意味について検討を行う。（主に3～5歳）	3～5歳児の保育内容について、自らの実習などの経験を想起し、振り返りを行う。	30
11	特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（１）	支援が必要な子やグレーゾーンの子について、現場での合理的な配慮やカリキュラムマネジメントの意味を知り、実践例などから考察を行う。	「支援が必要な子」と「グレーゾーンの子」の違いについてこれまでの学修内容等を振り返る。	30
12	特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（２）	支援が必要な子やグレーゾーンの子について、園全体として取り組むマネジメントの仕方について学び、実践例などから考察を行う。	先の授業内容を元にしつつ、園の教育・保育課程とクラスのカリキュラムについてどう連動させていく事が出来るかについて想起する。	30
13	保護者との連携をマネジメントする意味とその方法について	子ども達の背後にある家庭の状況を知り、保護者との連携の仕方や家庭支援の仕方を知り、事例などから保育としてどう取り組んでいけるかについて考察を行う。	現代の家庭を取り囲む課題について、ニュースなどから情報を集め、自分なりに必要な課題を考えてみる。	30
14	地域、関係機関との連携や接続に関するマネジメントについて	園を取り巻く社会資源について知り、各専門機関や社会環境との連携の仕方や活用の仕方について学ぶ。	これまでの学修内容や各情報などから保育に関連する機関は何かあるかを考え、その関連性について概観する。	30
15	まとめ	これまで授業で学んできたことを、トータル的に振り返り、保育課程の役割やマネジメントする意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、これまでの保育課程に関する視点を再確認する。	30

授業名	保育実践研究Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	保育実践研究Ⅰでは、子どもの活動のうち探究活動について、観察スキルを獲得することを目的としている。内容は、エピソード記述、マップ型観察記録、蜘蛛の巣型記録等を取りあげる。実際に附属幼稚園で観察を行い、記録を図式化し議論を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①これまでの保育活動をとおして得られた観察スキルを深められたか。 ②子どもの行為の着眼点を理解できたか。 ③子どもの行為の教育的意味の理解を深めることができたか。			
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 50% レポート50%	
テキスト	特に指定しない。			
参考書	適宜、授業で紹介し、資料を配布する。			
学生への要望	自身の問題意識と関連付けて受講されることを望みます。			
位置付け・水準	ES2105			
ディプロマポリシーとの関係	「問題発見・解決力」「社会公権力」「キャリア形成力」			
オフィスタイム	火、金 14:40～16:10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	附属幼稚園での子ども観察。多様な観察記録の作成。			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。多様な観察記録法があることを知る。	シラバスを通読し、「幼稚園教育要領」をおおよそ振り返る。	60
2	実習日誌の振り返り	実習日誌を手に取り、実習での様々なできごとを振り返り、受講生との議論をとおして、日誌の意味を考える。	実習日誌を振り返る	60
3	エピソード記述①	エピソード記述法について学び、実際に記述する。	資料を読む	60
4	エピソード記述②	記述したエピソードを発表し、議論する。	エピソードを記述する	60
5	マップ型記録法	マップ型記録法について学ぶ。子ども観察の準備を行う。	資料を読む。	60
6	子ども観察①	実際に附属幼稚園で子ども観察を行う。課題は、いわゆる10の姿を発見すること。	10の姿の内容を再確認する。	60
7	マップの作成①	観察した記録を結果を、マップに記録していく。	マップを描く。	60
8	マップの作成②	マップを完成させる。	マップを描く。	60
9	マップの作成③	完成させたマップを発表し、議論する。	マップを描く。	60
10	蜘蛛の巣型記録	蜘蛛の巣型記録について学ぶ。子ども観察の準備を行う。	資料を読む	60
11	子ども観察②	受講生が設定した観察の課題について、附属幼稚園で子ども観察を行う。	観察の準備をする。	60
12	観察記録の図示化①	観察した記録を、エピソード、マップ、蜘蛛の巣等の手法を駆使して、図示化の作業を行う。	図示化の作業を行う。	60
13	観察記録の図示化②	引き続き、図示化の作業を行う。	図示化の作業を行う。	60
14	観察記録の図示化③	図示化した記録を発表し、議論する。	観察記録を整理する	60
15	まとめ	これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめ、解説を受ける。	議論をまとめる。	60

授業名	保育実践研究Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎深谷 悠里絵			
開講期				
授業の概要	観察の方法について、創意工夫ができるようになることを目的としている。内容は、現在行われている多様な観察の方法の理解、観察の計画を立て、実際の観察を附属幼稚園で実施し、検討し、保育者との学び合いを行う。保育最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①観察の多様な方法について理解ができたか。 ②創意工夫して、方法の改良を行うことができたか。			
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 50% レポート50%	
テキスト	特に指定しない。			
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年度改訂版）フレーベル館、2018年。 他、適宜、授業で紹介し、資料を配布する。			
学生への要望	自身の問題意識と関連付けて受講されることを望みます。			
位置付け・水準	ES2106			
ディプロマポリシーとの関係	「問題発見・解決力」「社会公権力」「キャリア形成力」			
オフィスタイム	火、金 14:40~16:10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	観察記録の作成			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育実践研究Ⅰで学んだことを振り返る。	シラバスを通読し、保育実践研究Ⅰを振り返る。	60
2	ドキュメンテーション①	日々の子どもの活動を写真にとり、掲示やお便りに活用しているドキュメンテーションの手法を学ぶ。	資料を読む。	60
3	ドキュメンテーション②	附属幼稚園の展示を鑑賞し、ドキュメンテーションの意義を議論する。	資料を読む。	60
4	子ども観察計画	附属幼稚園での観察について計画を立てる。	資料を読む。	60
5	子ども観察の準備	観察シートを作成する。	観察シートを作成する。	60
6	子ども観察①	附属幼稚園で、観察する。	観察記録を整理する。	60
7	子ども観察②	引き続き附属幼稚園で、観察する。	観察記録を整理する。	60
8	観察記録の図示化①	観察した記録を、これまで学んできた記録手法を取り入れて、図示化する。	記録を整理する。	60
9	観察記録の図示化②	引き続き、図示化の作業を行う。	記録を整理する。	60
10	図示化の検討①	附属幼稚園で子どもの動きを再確認し、観察記録の図示化の工夫点を考える。	観察記録の図示化を検討する。	60
11	図示化の検討②	工夫した図示化の作業を行う。	図示化の工夫をする。	60
12	図示化の検討③	引き続き、工夫した図示化を進める。	図示化を仕上げる。	60
13	図示化の発表	自身の作品を発表し、議論する。	発表の準備をする。	60
14	保育者との学び合い	保育者にこれまでの報告をするとともに、子どもたちの背景にある状況などを伺う。	議論をまとめる。	60
15	まとめ	これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめ、解説を受ける。	議論をまとめる。	60

授業名	教育心理学特論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎折笠 国康		
開講期			
授業の概要	教育心理特論は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 ES2107		
授業の到達目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、「内容の7割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関連：専門的学識、キャリア形成力		
履修条件	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年	成績の 評価方法・基準	授業内容の「70%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。
テキスト	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
位置付け・水準	ES2107		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、キャリア形成力		
オフィスタイム	金曜1, 2限	835	
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション		
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。時代が求める学級の姿についてのディスカッションを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。時代が求める学級の姿についてのディスカッションを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。時代が求める学級の姿についてのディスカッションを行う。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	臨床心理学	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対し、心理学の観点から、問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探求する学問です。従来の臨床心理学の基本となる考え方の他に、昨今の家族構造の変化を鑑み、親子関係や家族関係に焦点を当てて取り扱われる問題を幅広く紹介します。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・臨床心理学がどのような学問か説明できる。 ・家族や子どもに対する心理的関わりにはどんなものがあるか概略を説明できる。		
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	ディスカッションへの積極的参加（50%）、授業内課題提出（50%）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2108		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「専門的学識」「社会貢献力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職（臨床心理士・公認心理師）として実務経験のある教員が担当します。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	臨床心理学とはなにか	・幼児理解と臨床心理学の関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	臨床心理学の歴史・考え方・立ち位置	・臨床心理学の歴史の大枠を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	臨床心理学的アプローチ	・子ども領域の臨床心理学について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	臨床心理学的アプローチ	・臨床心理学的接近法の理論を説明する ・子どもの行動をより深く理解する必要性について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	臨床心理学的アプローチ	・臨床心理学的接近法の理論を説明する ・子どものところに寄り添うことの必要性や方法について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	臨床心理学の世界 1	・夢分析（ユング心理学を中心に）について ・臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	臨床心理学の世界 2	・認知行動療法について ・臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	臨床心理学の世界 3	・内観療法（アレンジ合）について ・臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	臨床心理学の世界 4	・芸術療法（ボエムを中心に）について ・臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	臨床心理学の世界 5	・遊戯療法（コラージュ療法を中心に）について ・臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	心理療法の世界 1	・現代社会とジェンダー	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	心理療法の世界 2	・現代社会と産業ストレス・うつ	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	心理療法の世界 3	・現代社会と自殺の問題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	心理療法の世界 4	・現代社会と性的問題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	心理療法の世界 5	・現代社会と依存の問題 ・まとめ	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	臨床心理学演習	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対し、心理学の観点から、問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探索する学問です。臨床心理学の基本に基づいた人に対するかまへ、相談の受け方（接近の方法）、心理アセスメントの方法（DAM・遠城寺式乳幼児分析的発達検査・新版K式発達検査を中心に）などを体験的に学び、科学的視点をもちつつ寄り添いながら支援していくことについての考察を深めます。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・相談支援を行う際の臨床心理学的対人接近の方法について、理解し実践できる。 ・心理アセスメントについて理解し、その知識を支援に活かすことができる。			
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	ロールプレイやディスカッションへの取り組み、積極的な授業参加（50%）、授業内課題やレポート提出（50%）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	ES2109			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「問題発見・解決力」「キャリア形成力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	ロールプレイなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職（臨床心理士・公認心理師）として実務経験のある教員が担当します。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	臨床心理学のかまへ	・カウンセリングの理論について説明する ・カウンセリングマインドについて考えるワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	臨床心理学的接近の方法	・相談者の話を聞く姿勢と技法の説明 ・聞き方について考えるワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	アセスメントについて	・心理アセスメントについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	心理療法について	・子どもが出す様々なサインについて説明する ・心理療法について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	心理アセスメント実習1	・発達検査の種類について説明 ・グッドイナフ人物画知能検査（DAM）の実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	心理アセスメント実習2	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	心理アセスメント実践実習	・DAM+遠城寺式のロールプレイ実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	心理アセスメント実践実習	・DAM+遠城寺式のロールプレイ実習後の分析	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	発達臨床心理アセスメント実習1	・新版K式発達検査と発達支援	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	発達臨床心理アセスメント実習2	・乳幼児健康診察との関連	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	発達臨床心理アセスメント実習3	・新版K式発達検査の説明と実践	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	発達臨床心理アセスメント実習4	・新版K式発達検査の説明と実践	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	発達臨床心理アセスメント実習5	・新版K式発達検査の発達指数の算出	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	発達臨床心理アセスメント実習6	・他機関との連携 ・検査解釈例1	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	発達臨床心理アセスメント実習7	・保護者との関わり ・検査解釈例2	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	保育内容・方法の研究 健康	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎永瀬 悦子		
開講期	IV		
授業の概要	現代の子どもを取り巻く生活環境の課題を理解し、子どもの健康課題を理解していくための健康教育について学ぶ。特に、子どもの健康に関する生活習慣や心身の発育発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける。受講生は講義だけではなくアクティブラーニングを取り入れ受講生が自分の考えを発表する場を設ける。課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	①子どもの健康的な生活や発育発達に対する基礎的な知識を理解しているか。 ②現代社会における子どもの健康を阻害する要因を理解しているか。 ③子どもの健康課題を解決および健康の維持増進のための健康教育を理解しているか。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。		
履修条件	幼児教育学科 幼児教育学専攻2年生	成績の 評価方法・基準	授業参加度(50%) 課題・レポート(50%)
テキスト	浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康』教育情報出版		
参考書	随時、資料を配布する。		
学生への要望	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。授業は積極的姿勢を大切にしましょう。		
位置付け・水準	ES2110		
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」		
オフィスタイム	月曜日 1時限(9:00~10:30) 832研究室		
アクティブラーニング実施内容	第8回・第9回・第10回・第11回・第12回：グループワーク 第13回・第14回：発表		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現代の子どもを取り巻く生活環境と健康課題(1)	現代社会との関連から子どもの実態と健康課題(子どもの発育発達、食事、子どもの体力・運動能力、子どもの遊び・メディアによる健康被害)を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる。	60
2	現代の子どもを取り巻く生活環境と健康課題(2)	「現代の子どもを取り巻く生活環境と健康課題」の学修を踏まえ、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を学ぶ。	配布資料を読む。教材作成をする。	60
3	子どもの基本的な生活習慣と健康教育(1)	子どもの生活リズムと基本的な生活習慣(睡眠・清潔・排泄・衣服の着脱・食育)を理解する。また、子どもの健康が維持・増進するために必要な保育・教育について学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる。	60
4	子どもの基本的な生活習慣と健康教育(2)	「子どもの基本的な生活習慣と健康教育」の学修を踏まえ、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を学ぶ。	配布資料を読む。教材作成をする。	60
5	保育・教育の場における行事	子どもの健やかな成長を願い行われる年間行事について学ぶ。子どもたちが遊びを通して伝統や習慣を理解する教育を学ぶ。	配布資料を読む。教材作成をする。	60
6	子どもを取り巻く課題	これまでに学習してきたことを踏まえ、現代の子どもを取り巻く健康課題を理解する。また、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる。	60
7	健康教育の準備・計画・展開・評価について	健康課題を解決するための健康教育の計画立案をする。健康を逸脱した状況における健康支援及び「よりよい健康増進」の支援について学ぶ。※グループワーク	教材作成をする。	60
8	教材作成(1)	子どもの基本的な生活習慣や健康課題に関する指導計画を理解する。※グループワーク	教材作成をする。	60
9	教材作成(2)	子どもの基本的な生活習慣や健康課題に関する指導計画立案に基づき教材作成・検討を学ぶ。※グループワーク	教材作成をする。	60
10	教材作成(3)	子どもの基本的な生活習慣や健康課題に関する指導計画立案に基づき教材作成・効果的な教育方法について学ぶ。※グループワーク	教材作成をする。	60
11	教材作成(4)	子どもの基本的な生活習慣や健康課題に関する指導計画立案に基づき教材作成・効果的な教育方法について学ぶ。※グループワーク	教材作成をする。	60
12	教材作成(5)	子どもの基本的な生活習慣や健康課題に関する指導計画立案に基づき教材作成・効果的な教育方法について学ぶ。※グループワーク	教材作成をする。	60
13	健康教育の実践(1)	健康教育の効果的な発表方法について学ぶ。※発表	健康教育を効果的に実践するための方法を追求する。	60
14	健康教育の実践(2)	授業において健康教育を発表して評価をする。健康教育を受けた子どもの気持ちについて学ぶ。※発表	健康教育を効果的に実践するための方法を追求する。	60
15	まとめと今後の課題	一連の教育実践の過程で、今後必要な課題を見出し改善策について学ぶ。	実践の振り返りをする。	60

授業名	保育内容・方法の研究 人間関係	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	人は一人では生きていけません。子どもたちが、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わっていく力に注目しそれを育んでいく必要があります。本講義では、彼らが共に生きていく人々との間で作り上げる「人間関係」について分析し、具体的な指導場面を想定して保育を構想し、実践する方法を身につけます。本講義で取り扱う各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・幼稚園教育において育みたい「人間関係」に関する資質能力について理解できる。 ・幼児の発達に即した、主体的・対話的で深い学びが実現するような指導法を身につける。		
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	ディスカッションへの積極的参加（50%）、授業内課題や発表、レポート提出（50%）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2111		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「問題発見・解決力」「キャリア形成力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション・ロールプレイなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習日誌の振り返り	・子どもたちの体験している人間関係について、各自過去の 実習日誌を振り返る ・インクルーシブ教育について調べる	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
2	実習日誌の分析 1	・子どもを”一人の個人”としてみる視点に基づき、グループ で実習日誌を分析する ・好きなキャラクターを活かした支援を考える	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
3	実習日誌の分析 2	・子どもを取り巻く人々（家庭）の視点に基づき、グループ で実習日誌を分析する ・食への関心をもつための支援を考える	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
4	実習日誌の分析 3	・子どもを取り巻く人々（園）の視点に基づき、グループ で実習日誌を分析する ・誰かの助けが必要な子どもの支援を考える	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
5	実習日誌の分析 4	・子どもを取り巻く人々（地域）の視点に基づき、グループ で実習日誌を分析する ・親に障害がある子どもの支援を考える	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
6	指導計画を立てる（1）	・これまでのまとめ ・各自、架空事例をもとに、様々な「人間関係」に焦点を 当てた指導計画を立ててみる	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
7	指導計画の分析 1	・子どもの遊びと人間関係の観点から、グループで指導計 画を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	指導計画の分析 2	・子どもの遊びと人間関係（遊びの発達）の観点から、グ ループで指導計画を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	指導計画の分析 3	・子どもの遊びと人間関係（子ども同士のトラブルへの対 応）の観点から、グループで指導計画を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	指導計画の分析 4	・子どもの遊びと人間関係（社会的災害等で遊びを保障で きない場合）の観点から、グループで指導計画を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	指導計画を立てる（2）	・これまでのまとめ ・各自、架空事例をもとに、発達の視点を取り入れた「人 間関係」に関する指導計画を立ててみる	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
12	ロールプレイ実習 1	・発達に課題のある子どもが入っているクラスについてグ ループで対応方法を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
13	ロールプレイ実習 2	・発達に課題のある子どもが入っているクラスの感情表現 について、グループで関わり方を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
14	ロールプレイ実習 3	・発達に課題のある子どもが入っているクラスの自我の発 達について、グループで対応方法を検討する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
15	ロールプレイ実習 4	・子どもが多様な仲間を理解していく過程について、グ ループで検討する ・インクルーシブ教育について再度考えてみる	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60

授業名	保育内容・方法の研究 環境	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎柴田 卓		
開講期	1期		
授業の概要	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園教育要領の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、子どもを取りく理想的な保育環境について様々な視点から探求し、プレゼンテーションやディスカッション、模擬保育を通して保育実践力の向上を目指す。 ＊ポートフォリオ、プレゼンテーション、模擬保育時にフィードバックを行う。		
授業の到達目標	授業のテーマ及び到達目標 1) 子どもの学びと成長の視点から、環境の教育的意義を理解することができる。 2) 発達段階や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて教材を探求し、保育に活用することができる。 3) 5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて保育環境を構成することができる。 4) 地域の資源を活用した園外保育を計画・展開することができる。 ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。		
履修条件	幼児教育科幼児教育専攻1年生	成績の 評価方法・基準	ポートフォリオ40点 課題発表50点 平常点10点
テキスト	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館		
参考書	北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房		
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと		
位置付け・水準	ES2112		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力		
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（83年館824研究室）		
アクティブラーニング実施内容	プレゼンテーション、ディスカッション、模擬保育		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 領域「環境」の理解①	・授業の進め方や評価の仕方等に関する説明 ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
2	領域「環境」の理解②	子どもの学びと発達の視点から保育環境を考える	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
3	教材研究①	教材研究①廃材を活用した遊びと教材の探求	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
4	教材研究②	教材研究②文字・数字に触れる遊びと教材の探求	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
5	教材研究③	教材研究③自然物を活用した遊びと教材の探求	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
6	教材研究④	演習①保育教材の制作と模擬保育	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
7	フィールドワーク①	保育環境の探求①運動を促す玩具・遊具の探求 郡山市内園見学（多田野幼稚園等）および公園（フォレストパーク、ウィリアム記念公園等）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
8	フィールドワーク②	保育環境の探求②生き物の飼育を活かした保育の展開事例 郡山市内園見学（多田野幼稚園等）および公園（フォレストパーク、ウィリアム記念公園等）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
9	フィールドワーク③	保育環境の探求③植物を活かした保育の展開事例 郡山市内園見学（多田野幼稚園等）および公園（フォレストパーク等、ウィリアム記念公園）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
10	教材研究⑤	演習②運動・自然遊びを促す園舎・園庭環境のデザイン	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
11	教材研究⑥	演習③運動・自然遊びを促す園舎・園庭環境の発表	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
12	フィールドワーク④	地域の資源（自然・歴史・施設等）を活かした園外保育の探求 郡山市内公園（逢瀬公園、浄土松公園、子どもの森公園）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
13	フィールドワーク⑤	地域の資源（自然・歴史・施設等）を活かした園外保育の計画 郡山市内公園（逢瀬公園、浄土松公園、子どもの森公園）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	フィールドワーク⑥	地域の資源（自然・歴史・施設等）を活かした園外保育の展開と実践 郡山市内公園（逢瀬公園、浄土松公園、子どもの森公園）	授業で学習したことを各自調べながらポートフォリオへ記入する。	45
15	まとめ	本授業での学習成果をまとめる	14回分のポートフォリオを振り返えり、ルーブリック評価を実施する。	60

授業名	保育内容・方法の研究 言葉	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎佐々木 郁子		
開講期	I期		
授業の概要	本授業では、領域「言葉」の指導の基盤となる幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「言葉」の内容と意味を理解する。</li> <li>・乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。</li> <li>・乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。</li> <li>・領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。</li> <li>・言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。</li> <li>・児童文化財（絵本や紙芝居など）の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。</li> </ul> ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	幼児教育学専攻1年	成績の 評価方法・基準	平常点50%、レポート50%をもとに総合的に判断する
テキスト	毎回プリントを配布する。適宜、必要な文献を紹介する。		
参考書	毎回プリントを配布する。適宜、必要な文献を紹介する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること</li> <li>・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。</li> <li>・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡すること）</li> <li>・講義室の座席は、学籍番号順とする。</li> <li>・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。</li> </ul>		
位置付け・水準	ES2113		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力		
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12:20~12:50 佐々木研究室（83年館3階834研究室）		
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート		
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の意義、目的、概要、評価方法について理解する。</li> <li>・児童文化財の意義、役割について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
2	領域「言葉」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容「言葉」のねらい、内容を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
3	言葉遊びについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な言葉遊びを知る</li> <li>・子どもにとっての言葉遊びを考えて、実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
4	童謡について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとっての童謡の意義と役割を学ぶ</li> <li>・童謡と言葉の獲得とのかかわりを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
5	絵本について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとっての絵本の意義と役割を学ぶ</li> <li>・各年齢に適した絵本を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
6	絵本の読み聞かせ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を選定し、実践する</li> <li>・絵本を通して、子どもに伝えたいこと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
7	絵本の読み聞かせ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を選定し、実践する</li> <li>・絵本を通して、子どもに伝えたいこと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
8	ストーリーテリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリーテリングを学ぶ</li> <li>・実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
9	紙芝居について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の意義と役割を学ぶ</li> <li>・紙芝居の演じ方を学び、実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
10	指導案計画案について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせの指導案を考える</li> <li>・絵本の選定をし、対象年齢、人数、ねらいを明確にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
11	指導計画の作成①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
12	指導計画の作成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
13	模擬保育①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案に沿って模擬保育を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
14	模擬保育②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案に沿って模擬保育を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45
15	授業のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助」についてレポートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容を復習する。</li> <li>・資料の整理をし、ファイリングする。</li> </ul>	45

授業名	保育内容・方法の研究 表現			
担当教員名	◎磯部 哲夫 横溝 聡子 松田 理香	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修	
開講期	II期			
授業の概要	「幼稚園教育要領」における領域<表現>のねらいと内容を理解した上で、子どもの感性や表現する力を育てるために必要な保育内容と指導法を身につける。グループワーク等では、ディスカッション、双方向の協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく表現内容と指導上の留意点を理解している。 ②様々な表現の実践を通して、生活や遊びにおける幼児の様々な表現、コミュニケーションとしての表現の役割を理解する。 ③幼児の生活の中での様々な表現の育ち、より豊かな感性や表現に至る過程や具体的な保育場面が想定できる。 単位認定の最低基準は、①～③の内容の7割を理解し、授業や発表において確認出来ること。			
履修条件	専攻科幼児教育学専攻1年生	成績の 評価方法・基準	実技発表80%、指導案20%	
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、随時資料を配付			
参考書	特になし			
学生への要望	指導案作成、表現領域の自学自習を責任を持って行うこと。			
位置付け・水準	ES2114			
ディプロマポリシーとの関係	「問題発見・解決力」「キャリア形成力」			
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 841研究室 横溝：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限 No.1 幼児教育学科研究室 松田：金曜日1・Ⅱ限 823研究室			
アクティブラーニング実施内容	グループワーク等では、ディスカッション、双方向の協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・表現領域について (担当：磯部)	本科目の流れについて説明する。「幼稚園教育要領」における領域<表現>のねらいと内容について理解を深める。	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及び内容」の表現領域に関する項目を熟読しておくこと。	60
2	描画材による造形表現 (担当：松田)	アクリル絵具やカラーインク、ポスカ、クレヨン、墨などさまざまな画材を比較し、それらの特徴を活かした造形物を作る。	身近にあるさまざまな画材の特徴を調べる。	30
3	自然素材による造形表現 (担当：松田)	石や葉、枝など自然素材を活用して造形物を作り、物語の世界を表現する。	自然物の性質や特徴を知り、それらを活かした表現事例を調べる。	30
4	身近素材による造形表現 (担当：松田)	塩や小麦粉など身近な食材を活用して造形物を作り、平面と立体表現の可能性を探る。	身近な食材の性質や特徴を知り、それらを活かした表現事例を調べる。	30
5	光と影による造形表現 (担当：松田)	透明・不透明な素材を活用して造形物を作り、光の透過や反射を体験する。また影に着目した表現を試みる。	光と影の特徴を活かした造形表現の事例を調べ、関連する書籍や資料に触れながら表現の可能性を広げる。	30
6	弾き歌いの表現方法について (担当：磯部)	弾き歌いのポイントを理解する。子どもの歌で言葉が分かりやすく聴こえやすい歌唱法を身につける。	弾き歌いの楽譜の譜読みする。	60
7	歌唱を伴った身体表現について (担当：磯部)	幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	60
8	和音と幼児曲の簡易伴奏付け① (担当：横溝)	ピアノを用いてコードについて理解を深め、幼児曲の伴奏付けの実践力を身につける。	コードについて理解を深め、実際にピアノで弾けるようにすること。	60
9	和音と幼児曲の簡易伴奏付け② (担当：横溝)	ピアノを用いて和音とコードについて理解を深め、幼児曲の即興的な伴奏付けの実践力を身につける。	コードについて理解を深め、実際にピアノで弾けるようにすること。	60
10	表現活動の実践と指導法の研究 (担当：磯部)	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動における具体的な指導場面を想定して指導案を作成する。	表現活動における具体的な指導場面を想定して指導法について考察する。	60
11	指導案の作成と発表準備 (担当：横溝)	指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、発表の準備を行う。	指導案を作成し見直しを行う。	60
12	指導案の作成と発表準備 (担当：松田)	指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、発表の準備を行う。	指導案を作成し見直しを行う。	60
13	指導案の作成と発表準備 (担当：磯部)	指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、発表の準備を行う。	指導案を作成し見直しを行う。	60
14	指導案の作成と発表準備 (担当：横溝)	指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、発表の準備を行う。	指導案を作成し見直しを行う。	60
15	表現活動の発表とまとめ (担当：磯部、横溝、松田)	指導案を基に表現活動の発表を行う。全体を振り返り、省察を生かして表現領域の展望を考察する。	14回までの授業の振り返り、各自表現領域についての考察を行う。	60

授業名	子どもの遊び文化		
担当教員名	◎安部 高太朗 松田 理香 佐藤 久美	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択
開講期	後期		
授業の概要	<p>【授業の目的及び内容】</p> <p>本科目では、子どもの遊びが文化的背景を有することを踏まえ、子どもの遊びの世界を多角的に捉えられるようになることを目的とする。授業の前半では、主として文化人類学の知見を頼りにしながら、子どもの発達とその背景にある遊び・文化との関連性について学ぶ。授業の後半では、前半に学んだ文化的背景を有する子ども遊びに関して理解を深めるために、保育実践における遊びを念頭に置きつつ、造形表現や音楽表現などを実践する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】</p> <p>本科目における成績評価課題に対するフィードバックの方法は、教員から受講学生に対して口頭で行うことを基本とする。なお、第15回授業にて、受講学生が作成したレポートを共有して、感想や意見を出し合ったうえで、教員から総括的コメントを与える。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 主として文化人類学的視点を得ることで、子どもの遊びを多角的に捉えられるようになる。</p> <p>2. 造形表現・音楽表現等を具体的に実践することを通じて、子どもの遊びの意義を考える。</p> <p>3. 自分自身の文化から現代の遊び文化についての考察力を得る。</p> <p>単位認定の基準：上記の目標を総合して70%程度に達していること。</p>		
履修条件	原則として、短期大学部専攻科幼児教育学専攻科2年生であること。	成績の 評価方法・基準	①造形表現の成果物：30% ②音楽表現の成果物：30% ③最終レポート：40% ①～③の合計：100%
テキスト	授業時に適宜、資料を配布する。		
参考書	<p>小川博久 (2010) 『遊び保育論』 萌文書林</p> <p>カイヨワ, ロジェ (1990) 『遊びと人間』 (多田道太郎・塚崎幹夫訳)、講談社</p> <p>パーク, レイチェル・ダンカン, ジュディス (2017) 『文化を映し出す子どもの身体：文化人類学からみた日本とニュージーランドの幼児教育』 (七木田敦・中坪史典監訳)、福村出版</p> <p>ホイジンガ, ヨハン (2018) 『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』 (里見元一郎訳)、講談社</p>		
学生への要望	本科目は、講義を中心としつつも、造形表現や音楽表現などの実践を含みながら進める。そのため、受講学生には子どもの遊び、特に保育実践における遊びに対して幅広く情報を集めるように心がけ、授業内容と保育実践との関連を問い、保育実践を行うことを想定して授業を受講してほしい。		
位置付け・水準	ES2215		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、問題発見・解決力		
オフィスタイム	<p>・火曜日Ⅳ限 (14:40~16:10)</p> <p>・木曜日Ⅴ限 (16:20~17:50)</p> <p>いずれも、83年館2階の安部研究室 (821研究室) とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部 (k-abe@koriyama-kgc.ac.jp) までメールで連絡を入れること。</p>		
アクティブラーニング実施内容	授業時間内に学生同士で意見交換する機会を設ける。成績評価課題とする最終レポートについては、第15回授業時に互いに内容を共有したうえで、質問やコメントをもらうこととする。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション：子どもの遊びへの文化人類学的視線	子どもの発達・遊びに対する文化人類学的知見を参照しつつ、子どもにとっての遊ぶ意味を考える。	バーバラ・ロゴフらによる発達に対する社会文化的アプローチについて復習しておく。	30
2	子どもの遊びを取り巻く社会状況の変化：1970年代以降の日本を念頭に	「空き地」で野球をする《サザエさん》のカツオたち。実は、子どもの遊び場がまだ残されていた高度経済成長期頃から、日本では、子どもの遊び場を社会空間から巧みに排除していったのではないかと一果たして、子どもの遊び場は現代日本社会に残されているのか？受講学生みんなで考えてみよう。	小さい頃に地域社会のなかで異年齢の友達と遊んだ経験はあるだろうか？自分が経験していなければ、保護者世代の誰かに小さい頃に空き地で遊んだか、どんな遊びをしたものか、聞いてみてほしい。	30
3	遊びの再生？：保育所等での遊びの伝承について	前回授業で扱った状況を憂えた幼児教育学者の一人、小川博久の「遊び保育論」を参照し、保育所等で子どもが遊ぶことの意味を考えたい。	参考文献の『遊び保育論』の該当箇所のコピーを配るので、読んでくること。	30
4	遊び論の古典を読む①	ホイジンガによる「ホモ・ルーデンス」（遊ぶ人）という規定について見たうえで、子どもと遊びの関連を問う。	参考文献の『ホモ・ルーデンス』の該当箇所のコピーを配るので、読んでくること。	30
5	遊び論の古典を読む②	カイヨワによる遊びの分類を参考にしつつ、子どもの遊びの特性を考える。	参考文献の『遊びと人間』の該当箇所のコピーを配るので、読んでくること。	30
6	児童文化財と保育実践①：絵本・パネルシアター	絵本・パネルシアターの歴史的背景を示しながら、現在の保育実践における児童文化財の価値を考えるきっかけをつくる。	子どもの頃のお気に入りの絵本又は保育実習等で実際に読んだ絵本の特徴をノートに書き出してくる。	30
7	児童文化財と保育実践②：童謡	前回に引き続き、童謡を題材にしながら、保育実践における児童文化財の価値を考える。	子どもの頃のお気に入りの童謡又は保育実習等で実際に唄った童謡の特徴をノートに書き出してくる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	保育における遊びの伝承あるいは再生：保育行事としての「お正月」について	福笑い・羽子板・独楽回し…といった伝承遊びに触れる機会として「お正月」を題材にした保育行事がある。日常的に福笑いや羽子板で遊ぶ子どもはいないだろうことを想像すると、そもそも保育行事として伝承遊びに触れる意義はどこにあるのか、考えてみよう。	自分が実際にやったことのある「伝承遊び」について、何がどう面白いと思うかをノートに書き出し、整理してくる。	30
9	造形表現の実践①	さまざまな描画材を用いて物語を表現する。	身近な描画材の特徴を知り、造形表現の可能性を探る。	30
10	造形表現の実践②	造形表現の実践①で作成した物語を絵本にまとめる。お互いの作品を鑑賞し、感想を述べ合う。	作り手としての立場からさまざまな絵本を鑑賞する。	30
11	音楽と文化について 音楽表現の実践① 打楽器（無音程楽器）を用いた音遊び	・映像を通して世界各国の様々なリズムを学び、音楽と文化の関係について考える。 ・打楽器（無音程楽器）を用いた音楽表現の実践例を学び、音遊びの計画を作成する。	自分が子どもの頃に触れた曲や音楽活動を振り返り、印象に残っているものをまとめる。	30
12	音楽表現の実践② 音程がある楽器を用いた音遊び	・打楽器（無音程楽器）を用いた音遊びを発表し、学生同士でフィードバックを行う。 ・音程がある楽器を用いた音楽表現の実践例を学び、音遊びの計画を作成する。	打楽器（無音程楽器）を用いた音遊びの発表準備をする。	30
13	音楽表現の実践③ 楽器以外のものを用いた音遊び	・音程がある楽器を用いた音遊びを発表し、学生同士でフィードバックを行う。 ・楽器以外のものを用いた音楽表現の実践例を学び、音遊びの計画を作成する。	音程がある楽器を用いた音遊びの発表準備をする。	30
14	音楽表現の実践④ まとめ	・楽器以外のものを用いた音遊びを発表し、学生同士でフィードバックを行う。 ・子どもの遊びにおける音楽表現について、そのねらいや実践する際のポイントを振り返る。	楽器以外のものを用いた音遊びの発表準備をする。	30
15	まとめ	最終レポートを読み合い、授業全体のフィードバックする。	作成した最終レポートの要点を整理し、口頭で共有できるように準備してくる。	30

授業名	海外の保育	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択
担当教員名	◎柴田 卓		
開講期	3期		
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 保育者としての専門性を高めるために、様々なテーマに基づいて国外の保育事例を提示し、考察と議論を重ね、保育の多様性を理解する。また、国内の保育実践における今日の課題を発見し、その背景や解決方法について考察する。考察した内容はポートフォリオおよびパワーポイントにまとめ、最終授業において発表する。全15回を通して、学び続ける保育者としての態度を養うことを目的とする。 *ポートフォリオおよびプレゼンテーション時にフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1) 世界の保育内容とその方法について理解する。 2) 世界の幼児教育・保育におけるSDGsおよびESDについて理解する。 3) 子どもの権利概念について理解する 4) 世界の子育て支援政策を理解する。 5) 日本における幼児教育・保育の現状と課題について課題解決の方法を探究する力を養う。 ※単位認定の最低基準は、内容の理解および実践力の習得に関して7割以上であること。		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻2年生	成績の 評価方法・基準	ポートフォリオ40点 課題発表50点 平常点10点
テキスト	授業内容に応じて資料配布		
参考書	参考文献「転換期に向き合うデンマークの教育」ひとなる書房 「OECD編著,OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較」明石書店		
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと		
位置付け・水準	※位置づけ・水準ES2216		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、問題発見・解決力		
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限 (83年館824研究室)		
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション、ポートフォリオによるリフレクション、プレゼンテーション		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の概要説明	各回の授業内容をポートフォリオに記録し、各回に課された課題に取り組む	45
2	国内の保育活動における課題の探求	OECD保育白書から国内の保育実践における課題について議論する。	国内の保育課題についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
3	子どもの権利概念の理解①	映像をもとにヤヌシュ・コルチャックの生涯と人物像について理解する。	コルチャックの生涯についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
4	子どもの権利概念の理解②	国内外における子どもの権利概念と保育実践について考察する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	子どもの権利概念と保育についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
5	海外の保育事例①	デンマークの保育実践における民主主義教育、ニュージーランドのテファリキについて探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	民主主義教育、多文化共生等についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
6	海外の保育事例②	イタリアのレジジョアプローチ、オランダのプロジェクト保育について探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	プロジェクト保育やテーマ保育の特徴についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
7	海外の保育事例③	スウェーデン・デンマークの保育におけるESDおよびSDGsの実践について探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	保育実践におけるESDやSDGsの事例と国内での可能性についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
8	海外の保育事例④	アメリカとイギリスの保育におけるSTEAM教育について探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	STEAM教育の特徴とアプローチ方法についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
9	海外の保育事例⑤	フィンランド・スウェーデンの起業家精神教育、各国の健康教育について探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	保育における起業家精神教育の考え方や各国の健康教育についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
10	海外の保育事例⑥	フランスのテーマ保育（哲学）について、映像をもとに探求する。 事例をもとにグループでディスカッションする。	保育活動としての哲学の可能性についてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
11	グループワーク①	フランスのテーマ保育（哲学）を実践する。 保育における哲学のアプローチ方法について実践を通して探求する。	実践を通して学習したことについてポートフォリオに記録し、課された課題に取り組む	45
12	グループワーク②	質の高い保育とは何か、国内外の優れた事例を調査する。	各自関心のある国や事例について調査する。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	グループワーク③	調査した内容を整理し、パワーポイント等でまとめる。	調査した内容をパワポでまとめる。	45
14	グループワーク④	調査した内容を発表し、議論する。	発表した内容や議論した事柄を振り返り、ポートフォリオに記録する。	45
15	まとめ	国内の保育実践における課題の解決策について議論する。	本授業で学習したことをレポートにまとめる。	60

授業名	福島の食育	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択
担当教員名	◎柳沼 和子		
開講期			
授業の概要	<p>〔授業概要〕</p> <p>日本は南北に長い地形から成り立ち、海に囲まれている。地域ごとの気候や風土にも違いがみられ、私たちの祖先はその土地ならではの四季折々に採れる食材を大切に食してきた。食材を無駄にしない調理や保存を工夫し、季節ごとの行事に合わせた特別なご馳走を作り出し人生を豊かに過ごしてきた。日本の風土と歴史の中で生まれ、伝承されてきた食文化を次の世代へ受け継ぐことの必要性和大切さについて理解する。さらに、県や市町村における食育推進計画を通じて、地元の食文化や食生活に関心を高めることを目的とする。</p> <p>〔課題に対するフィードバック方法〕</p> <p>レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。</p>		
授業の到達目標	<p>〔達成目標〕</p> <p>①幼児教育に活かす行事食について理解を深める。 ②福島県の食文化や食生活に関心を高める。 ③プレゼンテーション発表会を実施する。 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。</p> <p>〔ディプロマポリシーとの関係〕</p> <p>創造的思考力、課題解決力、主体的行動力</p>		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻 2年	成績の 評価方法・基準	確認テスト40点、課題への取組み30点、プレゼンテーションへの取り組み30点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。
テキスト	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	講義・課題に対して意欲的に取り組み、グループでは積極的にディスカッションすること。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生・安全に心がけること。		
位置付け・水準	ES2217		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、問題発見・解決力		
オフィスタイム	家政学館2階 NO.2給食管理研究室 金曜 3・4 限目		
アクティブラーニング実施内容	調理実習 郷土料理を実際に作る		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	シラバスをもとに授業概要や達成目標を確認し、課題を提示する。	配布資料をもとに、授業内容について理解を深める。	30
2	「日本の四季」・「年中行事」・「通過儀礼」・「米」について	日本の四季や年中行事と行事食について学び、特に五節句について理解を深める。 通過儀礼と食事について学び、日本の米・餅文化について理解を深める。 稲作の伝播や年中行事について理解を深め、神事と関わりの深い日本の稲作文化について考える。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
3	「食育」について①	食育基本法の理念を学び、福島県が推進する「福島県食育推進計画」について学ぶ。 【課題】「食育たよりの作成」	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
4	「食育」について②	各地の食育の事例をもとに、地域社会と食生活について考える。 食育教材視聴	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
5	幼児教育と食育の関わり プレゼンテーション準備①	グループワーク：これまでの幼稚園・保育園での実習を通して、幼児教育現場で行われていた食の継承をディスカッションをする。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
6	「郷土料理」について①	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
7	調理実習「郷土料理」①	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「郷土料理」について学ぶ。	実習前に、調理手順について理解する。	30
8	幼児教育と食育の関わり プレゼンテーション準備②	グループワーク：料理の由来や作り方を学び、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法等を考え、発表用の資料作成を行う。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
9	「郷土料理」について②	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	実習前に、調理手順について理解する。	30
10	調理実習「郷土料理」②	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「郷土料理」について学ぶ。	実習前に、調理手順について理解する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	幼児教育と食育の関わり プレゼンテーション準備③	グループワーク：料理の由来や作り方を調査し、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法を考え、発表用の資料作成を行う。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
12	「郷土料理」について③	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	実習前に、調理手順について理解する。	30
13	調理実習「郷土料理」③	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「郷土料理」について学ぶ。	実習前に、調理手順について理解する。	30
14	幼児教育と食育の関わり プレゼンテーション準備④	3回の実習を通し、料理の由来や作り方をまとめ、今後の伝承・発信方法を考え、発表用の資料作成を行う。 ※確認テスト	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
15	授業のまとめ プレゼンテーション	作成したプレゼンテーションを発表し、ディスカッションする。 返却：確認テストの解説	授業内容をまとめる。	30

授業名	健康教育論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	I期			
授業の概要	子どもの育ちにおける基盤として、保育内容の5領域のうち「健康」に関して、運動・身体・発育発達・健康教育等の視点から学び、教育・保育現場に役立てる。こどもの心身の発育発達を理解し、幼児教育の健康的視点構築のための自分なりの立脚点を探るための考察を行う。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で総合的フィードバックを行う。 【授業の目的】幼児の健康に関する理論および知識並びに保育・教育現場への応用に関して考察する。			
授業の到達目標	領域「健康」における運動・身体・心理・発育発達・健康教育等の視点から、下記のような到達目標を設定する 1. 子どもの育ちにおける根幹としての健康の意義を理解する。 2. 子どもの身体への解釈の方法を知る 3. 子どもの発育発達の特徴と運動、生活習慣について理解する。 ディプロマポリシーとの関係：「問題発見・解決力」「キャリア形成力」 認定の最低基準：内容の7割達成していること。			
履修条件	幼稚園教諭免許を取得希望する学生	成績の 評価方法・基準	筆記試験50点、レポート50点	
テキスト	浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康』教育情報出版			
参考書	随時、資料を配布する。			
学生への要望	積極的に講義に臨んで下さい。			
位置付け・水準	ES2218			
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力			
オフィスタイム	月曜日 I 時限目 (9:00~10:30) 場所: 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	13回目~14回目はグループワークを行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	こどもの心身の発育発達と健康	「健康」の概念と健康に関する保育・教育内容について確認し、こどもの心身の発達と健康について学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
2	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣を育む基本的視点と生活の環境について事例検討を通して学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
3	こどもの食生活と健康	こどもの食を取り巻く現状と課題について理解し、食物アレルギーへの対応や育みたい食べる力について事例検討を通して学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
4	こどもの運動と遊び	こどもの運動発達の特徴を理解し、遊びが育む健康とたくましい心について事例検討を通して学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
5	こどもの安全と安全教育	こどもの日常生活のなかで発生している事故とケガの現状を理解し、安全教育と安全管理について事例を通して学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
6	こどもの健康の維持・増進に向けた指導計画と内容	こどもの健康の維持・増進に向けた求められることを理解する。指導計画の基本と指導計画の立案を学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
7	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣に関する保育・教育方法 I	こどもが主体的に生活リズムと基本的な生活習慣を身に付けるための保育・教育方法を学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
8	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣に関する保育・教育方法 II	こどもが主体的に生活リズムと基本的な生活習慣を身に付けるための保育・教育方法を考え、教材作成と実演をする。	講義内容を復習し学びを深める。	30
9	こどもの発育発達に応じた楽しい食事と健康に関する保育・教育方法 I	こどもが主体的に形成する健康的で楽しい食習慣を身に付けるための保育・教育方法を学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
10	こどもの発育発達に応じた楽しい食事と健康に関する保育・教育方法 II	こどもが主体的に形成する健康的で楽しい食習慣を身に付けるための保育・教育方法を考え、教材作成と実演をする。	講義内容を復習し学びを深める。	30
11	こどもの発育発達に応じた保健・衛生に関する保育・教育方法 I	こどもが主体的に保健・衛生を守る行動を身につける保育・教育方法について学ぶ。	講義内容を復習し学びを深める。	30
12	こどもの発育発達に応じた保健・衛生に関する保育・教育方法 II	こどもが主体的に保健・衛生を守る行動を身につける保育・教育方法を考え、教材作成と実演をする。	講義内容を復習し学びを深める。	30
13	こどもの健康の維持・増進に向けた保育・教育方法 I	現代社会における健康課題について考え、健康の維持・増進に向けた保育・教育方法について学ぶ。※グループワーク	講義内容を復習し学びを深める。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	こどもの健康の維持・増進に向けた保育・教育方法Ⅱ	現代社会における健康課題について、健康の維持・増進に向けた保育・教育方法を考えまとめる。※グループワーク	講義内容を復習し学びを深める。	30
15	まとめ	こどもの健康の概念、教材研究、健康教育の全体に関する学びのフィードバックを行う。	子どもの心身の健康に関して、遊び、身体、安全教育、健康教育の側面よりより深度のある考察を行う。	30

授業名	特別支援教育の理論と実践	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択
担当教員名	◎藤村 励子		
開講期	後期		
授業の概要	本授業では、まず特別支援教育の制度や教育課程の枠組み等を学習し、障がいのある幼児の就学後の学びについて理解する。その上で、幼児期に育みたい資質・能力等を考慮した個別の指導計画を作成し、特別な配慮を要する子どもを理解する視点や、その障がい特性及び発達段階等を踏まえた指導のあり方を学習する。また、個に応じた教材の作成、障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための活動計画を通して、実践的な技術を身につける。毎回授業後に提出する小レポートや各課題については、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 特別支援教育の制度や教育課程の枠組みについて理解する。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別の指導計画について、その意義や作成方法を理解する。 3. 障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法を理解する。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割が理解できていること。		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点20点（コメントシート、受講姿勢）、 課題50点（教材、表現活動）、期末試験30点
テキスト	特に指定しない		
参考書	授業時に紹介		
学生への要望	グループワークや発表の際など、積極的に意見交換し、クラスメイトから学ぶ姿勢を大切にしてください。		
位置付け・水準	ES2219		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、社会貢献力		
オフィスタイム	水曜 1、II 限、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）☑		
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション他		
実務家教員の経歴	無		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 特別支援教育の現状	授業計画や成績評価方法、オフィスタイム等を確認する。 特別支援学校幼稚部設置校数など、特別支援教育の現状を概観する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
2	特別支援教育の歴史・制度	特別支援教育の歴史の変遷について概観し、連続性のある多様な学びの場など、現在の特別支援教育の制度について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
3	障がいのある子どもの理解①	発達障がいのある子どもの心理的特性や生活上の困難について復習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
4	障がいのある子どもの理解②	視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある子どもの生活上の困難について復習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
5	特別支援学校幼稚部における教育の目標	特別支援学校幼稚部における教育の目標や、育みたい資質・能力等について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
6	特別支援教育の教育課程編成	特別支援教育における教育課程の枠組み及び教育課程編成の考え方について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
7	自立活動	自立活動の教育上の位置づけと内容について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
8	個別の指導計画①	個別の指導計画作成の意義と方法について理解し、指導計画作成のための幼児の実態評価について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
9	個別の指導計画②	障がいのある幼児の事例をもとに、個別の指導計画を作成する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
10	個に応じた教材①	障がいのある幼児の事例をもとに、幼児の実態に応じた教材を考え、作成する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
11	個に応じた教材② 指導上の配慮事項・環境整備	障がいのある幼児の実態に応じた教材を発表し、それぞれの良い点・改善点について議論する。障がいのある幼児の指導における配慮事項や適切な環境の整備について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
12	インクルーシブな学習活動①	障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための表現活動（音楽、身体表現、造形等）を計画する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
13	インクルーシブな学習活動②	障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための表現活動（音楽、身体表現、造形等）を発表し、それぞれの良い点・改善点について議論する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
14	家庭・関係機関との連携 小学校とのつながり	家庭・関係機関との連携の重要性や、小学部または小学校教育との接続にあたっての留意事項について学習する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	講義終了後に講義資料やノートを見て復習する。	30

授業名	パソコン実務演習	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。具体的には、子どもや家庭を対象とした情報モラル教育を題材として、一貫した資料作成・アンケート調査・データ集計・プレゼンテーション資料の作成を行う。実務で求められる業務資料作成に必要な文書作成ソフトの技能を学習する。また、表計算ソフトを用いた集計方法とグラフ作成を理解し、データ集計の基礎を身に着ける。最後に、プレゼンテーションソフトを用いた表現方法と動画作成技法を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報モラルを把握していること</li> <li>2. 実務で求められる文書作成ソフトの操作ができること</li> <li>3. 独自性を持った資料作成を行うための創意工夫ができること</li> </ol>		
履修条件	なし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価は資料作成演習（アンケート用紙作成）30%、データ集計演習（アンケート結果集計）30%、プレゼンテーション演習（説明スライド作成とプレゼンテーション実施）40%とする。
テキスト	なし、適宜資料を配布する		
参考書	なし		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
位置付け・水準	ES2120		
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」		
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施		
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算・プレゼンテーションについての授業を行う。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業内容を説明と、パソコンの基本設定を確認する	実施個所について、再度実施し、復習する。	30
2	情報モラルの理解	子どもの情報モラルに関する現状を理解する。統計資料や、子ども・保護者向け情報モラル講習の内容を踏まえて、課題にも触れる。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	情報モラルの指導	第2回で学習する情報モラル教育の具体例として、タイムマネージメントとリスクマネージメントを理解する。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	著作権・肖像権	教材や資料作成で注意すべき、著作権や肖像権について学ぶ。特に、最近では園の活動の様子をホームページ公開する次回以降の資料作成で必要な対策を理解する。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	資料作成演習（1）	情報モラルの現状を保護者調査するためのアンケート用紙を想定し、フォント・インデント・挿入・PDF等の機能理解を行い、文書作成演習を行う。（学習機能：オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、ページ区切り、段組みなど）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	資料作成演習（2）	第5回の続き（学習機能：表作成、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、PDF作成など）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
7	資料作成演習（3）	完成したアンケート用紙の講評と、改善点の確認及び修正を行う。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
8	データ集計演習（1）	第7回までに作成したアンケート用紙を用いたアンケートの模擬実施、および表計算ソフトでのデータ集計を行う。（学習機能：テーブル作成・管理・スタイル・レコード抽出並び替えなど）また、などクラウドサービスを用いたWEBアンケートを紹介する。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	データ集計演習（2）	第8回の続き（学習機能：関数・条件付き書式・グラフ作成など）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	プレゼンテーション演習（1）	完成した集計結果を用いて、子どもや保護者に対する情報モラル教育の指導内容を検討する。指導内容は、次回以降作成するプレゼンテーションスライドの基となる。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	プレゼンテーション演習（2）	アンケート子どもや保護者向けを想定したプレゼンテーション用スライド作成演習を行う。（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	プレゼンテーション演習（3）	第11回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	プレゼンテーション演習（4）	第12回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
14	プレゼンテーション演習（5）	作成したプレゼンテーションを用いた発表を行う	実施個所について、再度実施し、復習する。	60
15	振り返り	これまでの学習内容を振り返り、総括する。	実施個所について、再度実施し、復習する。	60

授業名	論文作成法演習Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	卒業論文作成のための基本的技術事項を学び、論文の基礎的素養を得る。 課題に対するフィードバック：最終授業においてフィードバックを行い、論文作成をする。			
授業の到達目標	1.学術的な論文の書き方について理解する。 2.学術的な論文を作成する。 DP:問題発見解決力。キャリア形成力を達成することを目標にする。  単位認定は、上記目標の7割を達成すること。			
履修条件	専攻科幼児教育学専攻1年	成績の 評価方法・基準	作成論文80%、授業態度20%	
テキスト	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』			
参考書	プリントは随時配布する。			
学生への要望	卒業論文を作成するにあたり、問いを立てるための基礎構築のため文献講読は自主的に行う。先行文献は、書籍に限らず、課題解決に必要な情報を集めるようにする。さらに、他の授業においても学生間の議論には積極的に参加し、他の意見を聞き、自己の意見を発表するよう努める。			
位置付け・水準	位置づけ・水準ES2121			
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力			
オフィスタイム	日時：水曜日13：00～14：30 場所：一柳研究室			
アクティブラーニング実施内容	論文を書くための準備として、パイロットスタディをまとめる。 また、自身の研究構想の中間発表をまとめる。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒論とは何か：研究と卒業論文。レポートとの違い	卒業論文について、レポートとの違いについて及び計画の立て方等考える。論文とは何か、についてまず考えることから始める。	教科書Ⅰ-1～Ⅰ-6を予習すること。	40
2	卒論とは何か：書く目的と結果への予測	研究の目的を考え、結論に対する推論を立てる。	教科書Ⅰ-7～11を予習する。	40
3	卒論とは何か：学術的テーマ（問い）の立て方 グループワークまたは自己のテーマ設定を考える	自己の学術的テーマ設定のため、グループワークにより自己と他者の内容に関して議論を行う。そして、さらに自己の学術的テーマを深める。	教科書Ⅱ-1～2の予習。	40
4	ゼミでの学び方：文献講読のしかた（英語文献を含む）	それぞれのテーマに沿って関心のある文献を講読する。必要であれば英語文献を講読する。海外のテーマでなくとも英語力は必須である。	教科書Ⅱ-3の予習。	40
5	ゼミでの学び方：テキストクリティークのしかた	講読文献の熟読。そして、著者の視点を読み解く。	教科書Ⅱ-4の予習。	40
6	ゼミでの学び方：発表、議論、共同研究	講読文献の熟読後、当該文献について発表し議論をする。学術的テーマの相互関係についても考える。	教科書Ⅱ-7-10の予習	40
7	論文の具体的書き方とメソッド：論文の基本的なきまり	学術論文作成にあたり基本的な決まり事を確認する。研究分野により相違する点と共通事項とがあることに及ぶ、	教科書Ⅲ-1～2の予習。	40
8	論文の具体的書き方とメソッド-1	論文内の引用について、種々な方法があることを確認する。さらに、研究内容による専門用語の相違について、意義と使用方法の基本を学ぶ。	教科書Ⅲ3～6の予習。	40
9	論文の具体的書き方とメソッド-2	論理的に考え、論理的に書く。自己の論の展開と、自己の考えを伝えるための文章力構築。読みやすく書く。そして推敲する。	教科書Ⅲ7～11予習のこと。	40
10	研究の進捗と文献収集	文献をどのように集めるか。一次資料と参考文献の扱い方。 英語文献を参照したいときはどうするのか。	教科書Ⅴ1～8予習のこと。	40
11	研究の深め方	文献を読み、さらに次の文献にあたる。そこから、自己の学術的テーマに近づく手がかりを探る。さらに先行文献を読む。知識を深めながら研究を深める。	教科書Ⅵ1～5を予習のこと。	40
12	論文作成への進捗状況報告-1	論文作成の進捗状況を順次報告する。報告後、質疑応答及び今後の見通しと予定を発表する。	教科書Ⅵ6～10予習のこと。	40
13	論文作成への進捗状況報告-2	論文作成の進捗状況を順次報告する。報告後、質疑応答及び今後の見通しと予定を発表する。	教科書Ⅶ1～10予習のこと。	40
14	論文作成への進捗状況報告-3	論文作成の進捗状況を順次報告する。報告後、質疑応答及び今後の見通しと予定を発表する。	教科書Ⅷ1～7の予習。	40

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ	これまでの論作成法に関する学びと経験のフィードバック。 自己の論文の問いと結論の整合性等について再考する。	教科書VIII5～7の予習。	40

授業名	論文作成法演習Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎折笠 国康		
開講期			
授業の概要	卒業論文作成のための基本的事項に則り、自らの研究テーマを立て、実際に論文を作成する。 課題に対するフィードバック：最終授業においてフィードバックを行い、論文作成をする。		
授業の到達目標	1.論文のテーマと構成を考える能力を養う。 2.学術的論文を仕上げる。 単位認定は、上記目標の7割を達成すること。Pの問題発見・解決を養い、キャリア形成に役に立つ。		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻1年	成績の 評価方法・基準	作成した論文100%
テキスト	特になし		
参考書	授業時に随時配布		
学生への要望	論文作成法演習Ⅱの内容をよく復習し、なるべく多くの文献にあたるよう努力してほしい。 あるいは、研究内容によっては、調査資料等一次資料にあたる必要のある方は、適宜計画的に資料収集してほしい。		
位置付け・水準	E S 2122		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力。キャリア形成力		
オフィスタイム	日時：水曜日13：00～14：30 場所：一柳研究室		
アクティブラーニング実施内容	論文を書くための準備として、パイロットスタディをまとめる。 また、自身の研究構想の中間発表をまとめる。		
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学術的論文を書いてみよう：研究テーマ策定-1	研究テーマを策定する。先行研究による前提から学術的な問いを立てる。それに対応した目的、研究方法、結論への推論を立てる。	先行研究にあたる	60
2	学術的論文を書いてみよう：研究テーマ策定-2	研究テーマを策定する。先行研究による前提から学術的な問いを立てる。それに対応した目的、研究方法、結論への推論を立てる。	先行研究にあたる	60
3	論文の構成を考える	研究目的、研究方法、研究内容、結果の構成を考える	研究内容に関わる文献内容をまとめる	60
4	論文の展開を考える	研究目的、研究方法、研究内容、結果の構成を考える	研究内容に関わる文献内容をまとめる	60
5	論文の進捗状況の中間報告：構成と展開の点検と推敲-1	論文の構成のうち、研究目的、研究方法、研究内容をまとめる	論文の研究目的、研究方法、研究内容をまとめる	60
6	論文の進捗状況の中間報告：構成と展開の点検と推敲-2	論文の構成のうち、研究目的、研究方法、研究内容をまとめる	論文の研究目的、研究方法、研究内容をまとめる	60
7	論文の進捗状況の中間発表：研究テーマとの整合性の議論。批判的議論	これまでにまとめた論文の中間発表を行う。提示した研究テーマに対して方法、内容が即しているかの確認。さらに、発表内容に対して、批判的に議論する。	論文の研究目的、研究方法、研究内容、研究結果をまとめる	60
8	論文の進捗状況の中間発表：研究テーマとの整合性の議論。賛同的議論	これまでにまとめた論文の中間発表を行う。提示した研究テーマに対して方法、内容が即しているかの確認。さらに、発表内容に対して、賛同的に議論する。	論文の研究目的、研究方法、研究内容、研究結果をまとめる	60
9	自己の論文構成の再構築	発表時の批判的議論と賛同的議論の内容を再考し、論文内容の再構築に反映する。	参考文献の再読、再考。	60
10	自己の論文内容の再考	発表時の批判的議論と賛同的議論の内容を再考し、論文内容の再構築に反映する。	参考文献の再読、再考。一次資料、調査資料等の再確認	60
11	論文を仕上げる：批判的意見の受容と不承認の再考	発表時の批判的議論と賛同的議論の内容を再考し、論文内容の再構築に反映する。	参考文献の再読、再考。再構築。	60
12	論文を仕上げる：客観的再読	自己の論文を客観的に再読し、気になる点、矛盾点等再考する。	論文の再読、再考、再構築。	60
13	論文を仕上げる：目的と結果の整合性の再考	自己の論文を客観的に再読し、気になる点、矛盾点等再考する。補足、脚注、引用等精査し確認する。	論文の再読、再考、再構築。	60
14	発表と議論	再考論文を再発表する。論文内容についての、質疑及び議論を行う。	論文の再読、再考、再構築。	60
15	まとめ	発表結果を自己の論文再考へフィードバックする。	論文の校正、発展的再考を行う。	60

授業名	論文講読演習Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	本科目は、受講生が自身の研究テーマに関連した論文を選び、読み、議論することをおして、学術論文の読み方を身につけることを目的としている。受講生にとっては、自身の選んだ論文にとどまらず、他の受講生が選んだ論文を読むこととおして、保育の視野を広げることになる。Ⅰの授業では、論文の検索の仕方、選び方、まとめ方等、論文の読み方のスキルを取りあげる。適宜、フィードバックする。			
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①研究テーマに関連した論文を検索し、選択できたか。 ②論文のまとめ方を、理解できたか。			
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 50% レポート50%	
テキスト	特に指定しない。			
参考書	適宜、授業で紹介し、資料を配布する。			
学生への要望	自身の研究テーマをできるだけ絞り込むようにすると、本科目の受講の意義が高まるでしょう。			
位置付け・水準	ES2123			
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」			
オフィスタイム	火、金 14:40～16:10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	論文検索及び購読			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。図書館で論文の検索法を確認する。	シラバスを通読し、自身の研究テーマを確認する。	60
2	論文検索①	自身の研究テーマに関連する論文の検索を行う、	パソコンで、検索する。	60
3	論文検索②	引き続き論文を検索し、他の受講生とともに講読するためにふさわしい論文を選ぶ。	パソコンで、検索する。	60
4	論文の構成	選択した論文の形を概観し、論文の構成について学ぶ。	論文を読む。	60
5	論文のまとめ方	選択した論文の要旨をまとめ、説明できるようにする。	論文をまとめる。	60
6	論文の講読①	論文の内容を紹介する。	論文を読む。	60
7	論文の講読②	論文の内容を紹介する。まとめ方の工夫をする。	論文の要旨をまとめる。	60
8	論文の講読③	論文の内容を紹介する。説明の仕方を工夫する。	まとめた資料を確認する、	60
9	論文の条件	よい論文とは何か。これまでの講読をおして、伝わる論文の条件を議論する。	議論をまとめる。	60
10	論文の講読④	引き続き、論文の内容について報告をする。自身の関心について説明を加える。	授業内容をまとめる。	60
11	論文の講読⑤	論文の内容について報告をする。疑問点を加える。	議論をまとめる。	60
12	論文の講読⑥	論文の内容について報告をする。納得できない点について議論する。	議論をまとめる。	60
13	論文を評価する	内容として充実している点、不十分な点に着目し、議論する。	議論をまとめる。	60
14	論評の試み	実際に自身が選んだ論文について、論評を書いてみる。	論評を書く。	60
15	まとめ	論評を読み合うことをおして、これまでのまとめをし、講評を聴く。	議論をまとめる。	60

授業名	論文講読演習Ⅱ（宇治）	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎宇治 和子 未定		
開講期			
授業の概要	ここは専攻科1年生ゼミ（臨床心理学）です。基本的にはメンバーがやりたいテーマ（教育学や子どもに関するものなど）を選び、心理学や保育学系の参考資料や文献にあたり、パイロット調査を行って研究内容を決定します。全体としては、最初に研究倫理について学び、年度末には構想発表会でプレゼンテーションを行い、論文作成をはじめるといった流れです。課題がある場合は、授業内にて随時返却 or フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・子どもを対象とした臨床心理学的研究のデザインと組み立てがわかる ・保育や幼稚園の現場で科学的な視点を取り入れた子ども理解ができるようになる。		
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	平常点（60点：取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度など）、研究成果（40点：構想発表）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2124		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「専門的学識」「問題発見・解決力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション・プレゼンテーションなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 1	・授業内容、評価方法について説明する ・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
2	研究の基礎 2	・関心のあるテーマについてのディスカッション ・資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
3	研究の基礎 3	・関心のあるテーマについてのディスカッション ・資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
4	研究の基礎 4	・研究倫理について	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
5	研究の基礎 5	・研究倫理の申請手続き準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
6	研究の基礎 6	・研究倫理の申請手続き	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
7	研究の展開 1	・パイロット調査の準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
8	研究の展開 2	・パイロット調査実施	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
9	研究の展開 3	・パイロット調査結果の分析	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
10	研究の展開 4	・引用・参考文献の整理	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
11	研究の展開 5	・引用・参考文献の読み込み	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
12	研究の展開 6	・引用・参考文献から研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
13	研究の展開 7	・引用・参考文献から研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
14	研究の展開 8	・プレゼンテーションの準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
15	研究の展開 9	・プレゼンテーションの実施	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

授業名	論文講読演習Ⅱ（柴田）	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎柴田 卓 未定		
開講期	Ⅱ期		
授業の概要	本科目は、Ⅰの演習で身につけたスキルを基礎に、修了研究に向けた論文講読を行う。論文の内容について批判的に講読し、批評を行う。適宜、フィードバックを行う。		
授業の到達目標	次の項目の70%以上を達成目標とする。 ①学術論文を検索し、要約・引用することができる。 ②講読した論文や自身のデータに対して考察し、ディスカッションを行うことができる。 ③自分の言葉で、課題と解決策等を発表することができる。		
履修条件	幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	各回の課題 50% レポート50%
テキスト	特に指定しない。		
参考書	随時文献を提示する。		
学生への要望	毎回の課題を整理して、授業に臨むこと。		
位置付け・水準	ES2124		
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」		
オフィスタイム	月曜5限、水曜4・5限 824研究室		
アクティブラーニング実施内容	論文検察及プレゼンテーション、ディスカッション		
実務家教員の経歴			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。大学の紀要について知り、実際に手にとってみる。自身の研究テーマに関連する学術論文を探す。	文献を検索し、情報を集める。	60
2	論文・参考文献の検索	自身の関心のあるテーマを整理し、文献を検索する。検索の方法を理解する。	文献を読む	60
3	論文・参考文献の選択	自身の関心のあるテーマを整理し、文献を検索する。検索した文献を読む。	文献を読む	60
4	論文・参考文献を読む	自身の関心のあるテーマを整理し、文献を検索する。検索した文献を読む。	文献を読む	60
5	論文・参考文献を要約する	読んだ文献を要約する。	文献を要約する	60
6	註とは何か	論文の註について、選択した論文をとおして、その意味を学ぶ。	文献を要約する	60
7	講読した論文のポイント、論点、矛盾点の整理	選択した論文の全体像を整理し、ポイントや矛盾点を整理する。	論点を整理する	60
8	講読した論文のポイント、論点、矛盾点の整理	選択した論文の全体像を整理し、ポイントや矛盾点を整理する。	論点を整理する	60
9	論文の批評の準備①	論点、疑問点、矛盾点について、調べたことを根拠に整理し、ディスカッションの準備を行う。	資料の作成	60
10	論文の批評の準備②	論点、疑問点、矛盾点について、調べたことを根拠に整理し、ディスカッションの準備を行う。	資料の作成	60
11	論文の批評の準備③	論点、疑問点、矛盾点について、調べたことを根拠に整理し、ディスカッションの準備を行う。	資料の作成	60
12	ディスカッション①	これまで準備してきた論文の批評を、発表し、議論する。	発表準備	60
13	ディスカッション②	これまで準備してきた論文の批評を、発表し、議論する。	発表準備	60
14	ディスカッション③	これまで準備してきた論文の批評を、発表し、議論する。	発表準備	60
15	まとめ	これまでの授業をとおして、論文の学術的な読み方を整理する。	学修成果を整理する。	60

授業名	論文講読演習Ⅱ（折笠）	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎折笠 国康 未定		
開講期			
授業の概要	卒業論文作成のための基本的事項に則り、自らの研究テーマを立て、先行研究の論文を講読する。 課題に対するフィードバック：最終授業においてフィードバックを行い、論文作成をする。		
授業の到達目標	1.論文のテーマと構成を考える能力を養う。 2.学術的論文を仕上げる。 単位認定は、上記目標の7割を達成すること。Pの問題発見・解決を養い、キャリア形成に役に立つ。		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻1年	成績の 評価方法・基準	毎回の発表内容100%
テキスト	適宜準備する		
参考書	適宜準備する		
学生への要望	多くの文献や先行研究にあたるよう努力してほしい。 適宜計画的に資料収集してほしい。		
位置付け・水準	ES2124		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力。キャリア形成力		
オフィスタイム	金曜日1,2限 835研究室		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（授業の進	オリエンテーション（授業の進め方）	先行研究にあたる	60
2	先行研究、発表について	文献検索の方法・論文の読み方 レジュメの作り方・発表の仕方等	先行研究にあたる	60
3	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究・文献にあたる	60
4	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
5	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
6	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
7	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
8	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
9	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
10	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
11	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
12	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
13	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
14	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60
15	発表・討論	先行研究、文献の指定された箇所を読む	先行研究や文献にあたる	60

授業名	修了研究 (宇治)	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 4単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 4 単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	ここは臨床心理学の修了研究です。基本的にはメンバーがやりたいテーマ（子どもの発達や教育に関するもの）を選び、心理学や保育学系の参考資料や文献にあたり、作業や調査を行って研究を深め、論文の完成を目指します。全体としては、最初に研究倫理について学び、途中には中間報告や構想発表などでプレゼンテーションを行い、終盤は論文作成という流れです。本講義で取り扱う各種課題は、授業内に随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・子どもを対象とした研究デザインと論文の組み立てがわかる ・幼児教育の現場で科学的な視点を取り入れた子ども理解ができるようになる		
履修条件		成績の 評価方法・基準	平常点（20点）、研究成果（80点）
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2225		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「問題発見・解決力」「キャリア形成力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション・プレゼンテーションなど		
実務家教員の経歴	この授業は、臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 1	・研究倫理について説明	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	120
2	研究の基礎 2	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	120
3	研究の基礎 3	・関心のあるテーマの決定・方向性についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
4	研究の基礎 4	・関心のあるテーマの決定・方向性についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
5	研究の基礎 5	・関心のあるテーマの決定・方向性についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
6	研究の基礎 6	・関心のあるテーマを調べる方法についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
7	研究の基礎 7	・関心のあるテーマを調べる方法についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
8	研究の基礎 8	・関心のあるテーマを調べる方法についてのディスカッション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
9	研究の基礎 9	・中間報告としてのプレゼンテーションの準備	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
10	研究の基礎10	・中間報告としてのプレゼンテーション	テーマに関する著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
11	研究の展開 1	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
12	研究の展開 2	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
13	研究の展開 3	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
14	研究の展開 4	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
15	研究の展開 5	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
16	研究の展開 6	・関心のあるテーマを調べる方法の決定・調査の準備についてのディスカッション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
17	論文の展開 7	・構想発表としてのプレゼンテーションの準備	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
18	論文の展開 8	・構想発表としてのプレゼンテーション	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
19	論文の展開 9	調査の実施	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	論文の展開10	調査の実施	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
21	論文のまとめ1	結果の整理	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
22	論文のまとめ2	結果の整理	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
23	研究のまとめ3	結果の分析	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
24	研究のまとめ4	結果の分析	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
25	研究のまとめ5	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
26	研究のまとめ6	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
27	論文のまとめ7	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
28	論文のまとめ8	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
29	研究のまとめ9	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120
30	研究のまとめ10	論文の作成指導	参考になる著作・先行研究論文などをよく読みこんで、知見を広げる	120

授業名	修了研究 (山上)	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 4単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 4単位 必修	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期	専攻科Ⅲ・Ⅳ期			
授業の概要	本授業は、学位授与機構から学士(教育学)の学位を授与されるように、学修成果物として論文を作成することを目的としています。研究計画、研究倫理などの研究の基本を学び、指導教員から指摘や問いを受け、研究成果の形を整えていきます。更に、論文の記述式の試問に対応できるように提出した論文への想定問答を担当教員とやりとりをとおして、試験に備えます。授業の際には、適宜作成したレジュメや発表原稿等に対するフィードバックを受けません。			
授業の到達目標	以下の項目の70%を到達目標とする。 ①研究テーマを設定し、論文として成果をまとめることを意識して計画的に研究を進めることができたか。 ②問いについて探究した結果を、文章にまとめていくことができたか。 ③研究倫理について理解することができたか。			
履修条件	原則、専攻科幼児教育学専攻2年生とする。	成績の 評価方法・基準	授業参加度30% 論文70%	
テキスト	特に指定はしない。			
参考書	適宜、授業中に紹介する。			
学生への要望	疑問を持ったことについて自ら調べ、他の参加学生と意見交換して、納得できる研究を進めて欲しい。 また、ノートに書き留めることを望みます。			
位置付け・水準	ES2225			
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力			
オフィスタイム	火、金 14:40~16:10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	受講生による研究論文と発表。			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明を聞く。自身の研究構想について伝わるように説明をする。	自分なりの問題関心を説明できるように準備する。	60
2	研究テーマの討議	研究テーマについて指導教員と討議を行い、テーマに則した研究計画を立てる。	研究資料を確認する。	60
3	研究資料の整理①	これまで取収してきた資料の整理をとおして、自身の研究構想を再確認する。	研究資料の整理を行う。	60
4	研究資料の整理②	資料の内容を読み込みつつ、資料の整理を行う。	研究資料の整理を行う。	60
5	論文としての文の作成①	執筆した文章を基にして、論文としての文章の書き方の指導を受ける。	これまで作成してきた文章をまとめる。	60
6	論文としての文の作成②	執筆した文章を基にして、論文としての文章の書き方の指導を受ける。	これまで作成してきた文章をまとめる。	60
7	研究資料の読解①	論文執筆に必要な資料を、指導教員とともに読み込む。	論文を作成する。	60
8	研究資料の読解②	論文執筆に必要な資料を、指導教員とともに読み込む。	論文を作成する。	60
9	論文の執筆①	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
10	論文の執筆②	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
11	論文の執筆③	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
12	論文の執筆④	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
13	論文の執筆⑤	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
14	論文の執筆⑥	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
15	論文の執筆⑦	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
16	論文の執筆⑧	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
17	論文の執筆⑨	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
18	論文の執筆⑩	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	研究資料と論文との突き合わせ①	改めて研究資料を再度確認し、論文の不備を修正していく。	研究資料の確認をする。	60
20	研究資料と論文との突き合わせ②	改めて研究資料を再度確認し、論文の不備を修正していく。	研究資料の確認をする。	60
21	研究資料と論文との突き合わせ③	改めて研究資料を再度確認し、論文の不備を修正していく。	研究資料の確認をする。	60
22	論文の執筆⑪	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
23	論文の執筆⑫	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
24	論文の執筆⑬	研究資料を用いながら作成した論文を、検討する。指導教員の指導を受ける。	論文を作成する。	60
25	記述試験対策①	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
26	記述試験対策②	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
27	記述試験対策③	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
28	記述試験対策④	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
29	記述試験対策⑤	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
30	記述試験対策⑥	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60

授業名	修士研究 (山脇)	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 4単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 4単位 必修
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期	専攻科Ⅲ・Ⅳ期		
授業の概要	本授業は、学位授与機構から学士(教育学)の学位を授与されるように、学修成果物として論文を作成することを目的とする。基本的に、受講者各自のベースで研究を進めるが、中間発表や学生間の意見交換の機会を設けることで、研究内容をブラッシュアップするきっかけを与えたい。授業序盤においては、研究倫理などの基礎的事項を修得することを重視し、中盤にかけて実際の論文作成に時間となる。終盤では、論文の記述式の試問に答え得るよう、提出した論文への想定問答を担当教員とやりとりすることで、学士の学位が取得できるようにする。本授業では学生が作成するレジュメや発表原稿等の課題に対するフィードバックを授業内に担当教員からコメントする形で行う。なお、最終成果物である論文に対するフィードバックは、論文提出後の、想定問答をつくるまえに、口頭で伝える予定である。		
授業の到達目標	本授業の到達目標は、次の通りである。 (1) 研究テーマを設定し、論文として成果をまとめることを意識して計画的に研究を進めることができる。 (2) 設定した研究テーマの核となる問いを練りあげ、その問いについて探究した結果を授業レジュメ等や草稿に記すことができる。 (3) 研究を進めるにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。 ○単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。		
履修条件	原則、専攻科幼児教育学専攻2年生とする。	成績の 評価方法・基準	①授業参加度(40%)：毎回の授業でのレジュメや発表から総合的に評価する。 ②論文(60%)：学位授与機構に提出予定の論文を対象として、主として教育学的な観点から評価する。 以上①+②の合計100点満点で評定をつける。なお、単位認定は70点以上(7割以上)の目標到達度とする。
テキスト	戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』、NHK出版 山内志朗(2021)『新版 ぎりぎり合格への論文マニュアル』、平凡社		
参考書	鈴木純子(2016)『質問紙デザインの技法』(第2版)、ナカニシヤ出版		
学生への要望	本科目を受講する学生には、以下の点を求める。 ・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。 ・他の参加学生と意見交換する等して、自ら研究を深めようとする。こと。 ・各自で用意した授業ノートに気づいたことを書き留めること。		
位置付け・水準	ES2225		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力		
オフィスタイム	木曜日4限、金曜日4限 場所：822号室(山脇研究室)		
アクティブラーニング実施内容	本授業は基本的に研究論文の作成を目的としているため、ほとんど全ての授業回で受講学生からレジュメや論文草稿を題材として発表してもらう予定である。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	本科目の進め方に関する説明を聞く。受講学生の自己紹介及び研究関心を共有する。	自分なりの問題関心を1分程度で紹介できるように、自己紹介及び研究関心についてというテーマで作文をしておく。	30
2	研究倫理に関するレクチャー①	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えると共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	『最新版 論文の教室』(戸田山, 2022)を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	30
3	研究倫理に関するレクチャー②	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えると共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	『最新版 論文の教室』(戸田山, 2022)を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	30
4	研究テーマに関する討議①	受講学生の問題関心を踏まえた、研究テーマ及びその核となる問いを出してもらい、学生・教員間で討議を行うことで、研究テーマ設定の方向性を探る。	『ギリギリ合格への論文マニュアル』(山内, 2021)を参照し、授業ノートに自分なりにテーマを記してくる。	30
5	研究テーマに関する討議②	受講学生の問題関心を踏まえた、研究テーマ及びその核となる問いを出してもらい、学生・教員間で討議を行うことで、研究テーマ設定の方向性を探る。	『ギリギリ合格への論文マニュアル』(山内, 2021)を参照し、授業ノートに自分なりにテーマを記してくる。	30
6	先行研究の整理①	研究のテーマに即した先行研究を整理する。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	60
7	先行研究の整理②	研究のテーマに即した先行研究を整理する。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	60
8	先行研究の読解①	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60
9	先行研究の読解②	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	先行研究の読解③	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60
11	先行研究の読解④	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60
12	先行研究の読解⑤	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60
13	研究テーマの再検討と対象の確定	先行研究の読解を経て、議論の方向性・論点を確認し、研究テーマについて再検討する。さらに、具体的な研究対象(何をどの範囲まで調べるのか)を決定する。	先行研究についての論点を授業ノートに整理し、共有できるようにレジュメ化してくる。	60
14	研究計画の策定	研究のテーマ・対象について調べていく作業工程をつくる。	先行研究の文献リストを作成し、おおよそどのくらいの時間で読み切ることができそうか、予想を立ててくる。	60
15	論文執筆①	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
16	論文執筆②	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
17	論文執筆③	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
18	論文執筆④	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
19	論文執筆⑤	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
20	論文執筆⑥	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
21	論文執筆⑦	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
22	論文執筆⑧	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
23	論文執筆⑨	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
24	論文執筆⑩	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
25	記述試験対策①	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
26	記述試験対策②	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
27	記述試験対策③	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
28	記述試験対策④	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
29	記述試験対策⑤	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
30	記述試験対策⑥	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60

授業名	修了研究(柴田)	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 4単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 4 単位 必修
担当教員名	◎柴田 卓		
開講期	専攻科Ⅲ・Ⅳ期		
授業の概要	本授業は、学位授与機構から学士(教育学)の学位を授与されるように、学修成果物として論文を作成することを目的とする。基本的に、受講者各自のベースで研究を進めるが、中間発表や学生間の意見交換の機会を設けることで、研究内容をブラッシュアップするきっかけを与える。授業序盤においては、研究倫理などの基礎的事項を修得することを重視し、中盤にかけて実際の論文の作成時間とする。終盤では、論文の記述式の試問に答え得るよう、提出した論文への想定問答を行い、学士の学位が取得できるようにする。本授業では学生が作成するレジュメや発表原稿等の課題に対するフィードバックを授業内に担当教員からコメントする形で行う。		
授業の到達目標	本授業の到達目標は、次の通りである。 (1) 研究テーマを設定し、論文として成果をまとめることを意識して計画的に研究を進めることができる。 (2) 設定した研究テーマと、その問いについて探究した結果を授業レジュメ等や草稿に記すことができる。 (3) 研究を進めるにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。 ○単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。		
履修条件	原則、専攻科幼児教育学専攻2年生とする。	成績の 評価方法・基準	①各課題や発表(40%)毎回の授業での取り組みを総合的に評価する。 ②論文(60%)：学位授与機構に提出予定の論文を対象として、主として教育学的な観点から評価する。 以上①+②の合計100点満点で評定をつける。なお、単位認定は70点以上(7割以上)の目標到達度とする。
テキスト	受講学生の研究テーマにより決定する。		
参考書	受講学生の研究テーマにより決定する。		
学生への要望	本科目を受講する学生には、以下の点を求める。 ・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。 ・自らの研究の質を高めようと努力すること。 ・各自で用意した研究ノートに気づいたことを書き留めること。 ・フィールド調査を研究方法とする場合は、事前に相談しながら計画を立て、授業の一環として実施する。		
位置付け・水準	ES2225		
ディプロマポリシーとの関係	問題発見・解決力、キャリア形成力		
オフィスタイム	月曜5限、水曜3限・4限・5限 824研究室		
アクティブラーニング実施内容	本授業は基本的に研究論文の作成を目的としているため、毎回の授業で受講学生から課題や進捗状況についてプレゼンを課す予定である。		
実務家教員の経歴			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	本科目の進め方に関する説明を聞く。受講学生の自己紹介及び研究関心を共有する。	自分なりの問題関心を1分程度で紹介できるように、自己紹介及び研究関心についてというテーマで作文をしておく。	30
2	研究倫理に関するレクチャー①	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えると共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	30
3	研究倫理に関するレクチャー②	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えると共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	30
4	研究テーマに関する討議①	受講学生の問題関心を踏まえた、研究テーマ及びその核となる問いを出してもらい、学生・教員間で討議を行うことで、研究テーマ設定の方向性を探る。	先行文献を熟読する。	30
5	研究テーマに関する討議②	受講学生の問題関心を踏まえた、研究テーマ及びその核となる問いを出してもらい、学生・教員間で討議を行うことで、研究テーマ設定の方向性を探る。	先行文献を熟読する。	30
6	先行研究の整理①	研究のテーマに即した先行研究を整理する。	先行文献を熟読する。	60
7	先行研究の整理②	研究のテーマに即した先行研究を整理する。	先行文献を熟読する。	60
8	先行研究の読解①	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60
9	先行研究の読解②	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジュメをつくってくる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	先行研究の読解③	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジメをつくってくる。	60
11	先行研究の読解④	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジメをつくってくる。	60
12	先行研究の読解⑤	先行研究のうち、特に重要な論文を学生・教員間で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	文献のレジメをつくってくる。	60
13	研究テーマの再検討と対象の確定	先行研究の読解を経て、議論の方向性・論点を確認し、研究テーマについて再検討する。さらに、具体的な研究対象(何をどの範囲まで調べるのか)を決定する。	先行研究についての論点を授業ノートに整理し、共有できるようにレジメ化してくる。	60
14	研究計画の策定	研究のテーマ・対象について調べていく作業工程をつくる。	先行研究の文献リストを作成し、おおよそどのくらいの時間で読み切ることができそうか、予想を立ててくる。	60
15	論文執筆①	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
16	論文執筆②	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
17	論文執筆③	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
18	論文執筆④	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
19	論文執筆⑤	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
20	論文執筆⑥	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
21	論文執筆⑦	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
22	論文執筆⑧	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
23	論文執筆⑨	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
24	論文執筆⑩	論文草稿について書き進めたところまで持ってきたものを検討する。	論文草稿をつくってくる。	60
25	記述試験対策①	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
26	記述試験対策②	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
27	記述試験対策③	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
28	記述試験対策④	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
29	記述試験対策⑤	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60
30	記述試験対策⑥	提出した論文に対する想定問答を作り、応答内容について検討する。	想定される質問を授業ノートに書き出し、応答内容を検討する。	60

授業名	修士研究(折笠)	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 4単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 4単位 必修
担当教員名	◎折笠 国康		
開講期			
授業の概要	研究テーマは各自の問題意識に基づいて決定し、主に教育心理学における理論や研究手法について指導をおこなう。論文とはどのようなものなのかを学び、その後研究手法や論文構成に関する知識と理解を深める。 位置づけ・水準 ES2225		
授業の到達目標	①科学的論文とはどのようなものなのかを理解できたか。 ②自ら選び取った専門領域の基礎的な論文の構成が理解できたか。 単位認定の最低基準は、7割以上の知識理解をともなった発表を行うこと。		
履修条件	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻2年	成績の 評価方法・基準	平常点60点、研究成果を40点として評価する。
テキスト	特に指定はない。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	明確な問題意識が必要		
位置付け・水準	ES2225		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識		
オフィスタイム	金曜1, 2限	835	
アクティブラーニング実施内容	発表を行う。		
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
0				
1	オリエンテーション	方針と運営の仕方	必要に応じて文献にあたる。	60
2	論文執筆の基礎 1	論文とは	必要に応じて文献にあたる。	60
3	論文執筆の基礎 2	科学的な論文とは	必要に応じて文献にあたる。	60
4	論文執筆の基礎 3	問題と目的について	必要に応じて文献にあたる。	60
5	論文執筆の基礎 4	問題と目的 2	必要に応じて文献にあたる。	60
6	先行研究 1	先行研究について	必要に応じて文献にあたる。	60
7	先行研究 2	先行研究	必要に応じて文献にあたる。	60
8	先行研究 3	先行研究	必要に応じて文献にあたる。	60
9	先行研究 4	先行研究	必要に応じて文献にあたる。	60
10	先行研究 5	先行研究	必要に応じて文献にあたる。	60
11	研究手法 1	心理統計学 1	必要に応じて文献にあたる。	60
12	研究手法 2	心理統計学 2	必要に応じて文献にあたる。	60
13	研究手法 3	心理統計学 3	必要に応じて文献にあたる。	60
14	理論と仮説の構築 1	理論・仮説構築	必要に応じて文献にあたる。	60
15	理論と仮説の構築 2	理論・仮説の構築	必要に応じて文献にあたる。	60
16	理論と仮説の構築 3	理論・仮説の構築	必要に応じて文献にあたる。	60
17	調査の分析 1	統計処理の演習	必要に応じて文献にあたる。	60
18	調査の分析 2	統計処理の演習	必要に応じて文献にあたる。	60
19	調査の分析 3	統計処理の演習	必要に応じて文献にあたる。	60
20	調査の分析 4	統計処理の演習	必要に応じて文献にあたる。	60
21	調査の分析 5	統計処理の演習	必要に応じて文献にあたる。	60
22	調査のまとめ 1	分析結果のまとめ	必要に応じて文献にあたる。	60
23	調査のまとめ 2	分析結果のまとめ	必要に応じて文献にあたる。	60
24	調査のまとめ 3	分析結果のまとめ	必要に応じて文献にあたる。	60
25	調査のまとめ 4	分析結果のまとめ	必要に応じて文献にあたる。	60
26	調査のまとめ 5	結果に対する考察	必要に応じて文献にあたる。	60
27	調査のまとめ 6	結果に対する考察	必要に応じて文献にあたる。	60
28	調査のまとめ 7	結果に対する考察	必要に応じて文献にあたる。	60
29	研究発表の準備 1	研究発表の準備	必要に応じて文献にあたる。	60
30	研究発表の準備 2	研究発表の準備	必要に応じて文献にあたる。	60

授業名	家族関係学	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 必修	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	前期			
授業の概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。最終的に、筆記試験採点後の答案を返却しフィードバックを行います。			
授業の到達目標	達成目標は、筆記試験で7割以上の得点となること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)	
テキスト	特に指定しない			
参考書	園井ゆり監修『第4版 家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2022年			
学生への要望	授業テーマに関連する新聞記事や書籍を積極的に読み理解を深める。			
位置付け・水準	位置づけ・水準:生活科学科DS2413、食物栄養学科FN2403、専攻科文化学専攻・専攻科幼児教育専攻:専門関連科目			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、2)課題解決力			
オフィスタイム	火曜Ⅱ限、Ⅲ限 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容	課題としてミニレポート作成が数回ある。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき授業概要・目標、成績評価法、今後の授業予定等を説明した後に、家族の定義について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会学的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
10	少子化と子育て支援	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
11	児童虐待と里親制度	児童虐待とその背景、里親制度の展開と意義、児童福祉の将来展望について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
12	中高年世代と家族	中高年世代と家族変動、ロスジェネ世代が抱える問題、中高年者の社会的孤立、支援の仕組み等について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
13	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	授業全体の振り返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

授業名	貧困に対する支援	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択
担当教員名	◎橋本 仁信		
開講期	後期		
授業の概要	公的扶助は、現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対応する制度的な取り組みを指し、社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットと位置付けられている。そこで、公的扶助の概念や意義と、生活保護制度や低所得者対策のしくみとその動向を学ぶとともに、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を事例を通じて理解し、実践活動に役立てられるようにする。 課題に対するフィードバック方法 課題を返却し、コメントによるフィードバックを行う		
授業の到達目標	【達成目標】 ①公的扶助の概念や意義は理解できたか。 ②生活保護制度や低所得者対策のしくみ、その動向を理解できたか。 ③貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を理解できたか。 【単位認定の最低基準】生活保護制度の実施体制と仕組みが7割理解できている。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	定期試験70%、課題30%。
テキスト	最新社会福祉士養成講座 4 「貧困に対する支援」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	生活保護を取り巻く社会の状況に関心を持ってください。 予習・復習を心掛けて下さい。		
位置付け・水準	HW2363		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解		
オフィスタイム	授業前		
アクティブラーニング実施内容	なし		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 公的扶助の概念（1）	授業の概略の説明 国家試験の出題実績について解説 公的扶助の概念と範囲	・テキストで低所得者支援の概略を確認する	40
2	公的扶助の概念（2） 貧困の概念	公的扶助の意義と役割 貧困の概念について調べた内容を発表し、ディスカッションを行う	・貧困の概念について調べる	30
3	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境	貧困状態にある人の生活実態 貧困状態にある人を取り巻く社会環境	・「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」を閲覧し、テキストで取り上げていない項目について調べる	60
4	貧困の歴史	貧困状態にある人に対する福祉の理念 貧困観の変遷 貧困に対する制度の発展過程	・時代によって変化した貧困の概念を調べる	60
5	生活保護制度（1）	生活保護制度の原理 ・原則 保護の種類と内容および方法	・生活保護制度の原理・原則を調べる	60
6	生活保護制度（2）	被保護者の権利および義務について理解する	・現在の生活保護基準額を調べる	60
7	生活保護の動向	保護率、被保護人員及び被保護世帯の動向について学ぶ 保護の開始、廃止の動向	・生活保護制度を利用している被保護世帯の動向について調べる	60
8	低所得者に対する法制度（1）	生活困窮者自立支援法に基づく各事業の概要を学ぶ	・生活困窮者の抱える複合的な課題について調べる	60
9	低所得者に対する法制度（2）	生活福祉資金貸付制度 低所得者対策	・自分の住む地域の低所得者対策を調べる	40
10	ホームレス対策	ホームレスの生活実態とホームレス自立支援法	・自分の住む地域のホームレスの実態やどのような対策が取られているかを調べる。	50
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割（1）	公私の役割関係 国、都道府県、市町村の役割	・自分の住む地域の貧困対策の実施体制について調べる	50
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割（2）	福祉事務所の役割 自立相談支援機関の役割	・自分の住む市町村の福祉事務所の業務を調べる	50
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割（3）	関係機関の役割 関連する専門職の役割	・貧困状態にある子どもが学校等で発見された場合、どのような支援が行われているか調べる	40

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	貧困に対する支援の実際（1）	貧困に対する支援と社会福祉士の役割を学ぶ テキストの事例についてディスカッションを行う	・テキストの事例を予習する	40
15	貧困に対する支援の実際（2）	支援に必要とされる視点と基本姿勢 生活保護における相談援助活動の枠組み	・事例を読み、社会福祉士の支援の視点を考える	30

<b>授業名</b>	特別支援教育総論		
<b>担当教員名</b>	◎小林 徹 佐藤 久美 藤村 励子	<b>配当年次 単位数</b>	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業の概要</b>	1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。		
<b>授業の到達目標</b>	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。		
<b>履修条件</b>	生活科学科の学生を中心とする	<b>成績の 評価方法・基準</b>	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点
<b>テキスト</b>	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020 文部科学省『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019		
<b>参考書</b>	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q & A』チャイルド本社,2008		
<b>学生への要望</b>	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。		
<b>位置付け・水準</b>	DS2217		
<b>ディプロマポリシーとの関係</b>	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任		
<b>オフィスタイム</b>	【小林】 毎週水曜 9:10～12:05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】 毎週水曜 9:00～12:30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】 毎週水曜 9:00～12:10、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
<b>アクティブラーニング実施内容</b>	履修者が「個別の指導計画」を作成・発表した内容についてディスカッションを行う。		
<b>実務家教員の経歴</b>	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障がい児支援の工夫（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と指導方法①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と指導方法②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

<b>授業名</b>	こころのしくみと機能		<b>配当年次 単位数</b>	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択
<b>担当教員名</b>	◎宇治 和子			
<b>開講期</b>				
<b>授業の概要</b>	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問です。心理学の歴史や理論、基本的な考え方を幅広く学ぶことにより、支援対象者がその行動を取った理由、不安の原因、発言の背景など、より深い人間理解が可能となります。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
<b>授業の到達目標</b>	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・心理学的視点や基礎理論に基づいて、人間理解ができるようになる。 ・人間の発達段階や発達課題から見た問題の捉え方ができるようになる。			
<b>履修条件</b>	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修） 社会福祉士の資格取得を目指す者（必修）	<b>成績の 評価方法・基準</b>	積極的な授業参加（20％）、授業内課題やレポート（3回：80％）により評価します。	
<b>テキスト</b>	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
<b>参考書</b>	授業の中で、随時紹介します。			
<b>学生への要望</b>	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
<b>位置付け・水準</b>	DW2231			
<b>ディプロマポリシーとの関係</b>	この科目は、本学生活科学科DPの「論理的思考・問題解決力」「倫理的・社会的責任」に関連しています。			
<b>オフィスタイム</b>	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
<b>アクティブラーニング実施内容</b>	実験・グループワーク・ロールプレイなど			
<b>実務家教員の経歴</b>	この授業は、介護福祉士・社会福祉士の資格必修科目に位置づけられ、臨床心理士・公認心理師であり、福祉行政の現場で心理職として多職種と連携しながら実務をした経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・心理学とはなにかについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	心理学史	・心理学の大まかな歴史的流れを説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	学習心理学	・学習心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	認知心理学	・認知心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	社会心理学	・社会心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	感情心理学	・感情心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	人格心理学	・人格心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	発達心理学	・発達心理学の考え方を使得って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	臨床心理学の世界	・臨床心理学の大まかな歴史的流れを説明する ・共感・傾聴・人に寄り添う態度について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	人間の発達段階と課題1	・胎生期/乳幼児の発達段階と課題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	人間の発達段階と課題2	・幼児期/児童期の発達段階と課題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	人間の発達段階と課題3	・思春期/青年期の発達段階と課題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	人間の発達段階と課題4	・成人期の発達段階と課題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	人間の発達段階と課題5	・中年期/老年期の発達段階と課題	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	こころと脳	・脳の機能と役割について説明する ・身体/こころとは何かを考えるワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	社会保障論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業の概要	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティーネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。 【課題（レポート）に対するフィードバックの方法について】 各自提出してもらったレポートを元に、関心を持っている点や課題について振り返る。			
授業の到達目標	下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 ①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。 ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。 ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について理解・関心が深まったか。			
履修条件	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 専攻科 幼児教育学専攻 1年生	成績の 評価方法・基準	①小テスト 20点 ②定期試験 80点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	「わかる・みえる社会保障論 事例でつかむ社会保障入門」今井 伸 編、(株)みらい 「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
位置付け・水準	DW2352			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	特になし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会保障とは何か①	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。 私たちの生活と社会保障、自助・互助・共助・公助の展開について学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
2	社会保障とは何か②	少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
3	社会保障とは何か③	個人・家族・地域・社会のしくみと関わり、及び生活と社会の関わりについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
4	医療保険制度①	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
5	医療保険制度②	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。（続き）	これまでの学修内容を復習し、小テストに備えること。	60
6	雇用保険制度	雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。	これまでの学修内容を復習し、小テストに備えること。	60
7	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。小テストを実施する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
8	年金保険制度	年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
9	介護保険制度	介護保険制度の創設と概要等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
10	地域共生社会と地域包括ケアシステム	地域共生社会と地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、制度などについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
11	生活保護制度	生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
12	社会福祉制度	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
13	社会保障の財源と費用	社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	60
14	諸外国における社会保障制度	ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	60
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	90

授業名	絵本とイラストレーション	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎松田 理香		
開講期	Ⅱ期		
授業の概要	<p>簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学びます。表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16ページの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させ提出してください。</p> <p>授業のフィードバック：完成した作品を全員で鑑賞し感想などを述べ合う際や提出したレポートを返却する際に、コメントなどによるフィードバックを行います。</p>		
授業の到達目標	<p>編集デザインの視点から絵本を制作します。絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。</p> <p>○単位認定の最低基準：課題作品およびレポートの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します） 作品は7割以上の完成度を旨すこと。</p>		
履修条件	地域創成学科の学生 専攻科幼児教育学専攻の学生	成績の 評価方法・基準	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。
テキスト	簡易な制作手順資料を配布します。		
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。		
学生への要望	各自の表現方法を活かしながらオリジナルの手作り絵本を完成させてください。また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。		
位置付け・水準	CD2169		
ディプロマポリシーとの関係	①知識理解 ②創造的思考力		
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室		
アクティブラーニング実施内容	学生相互に表現方法についての意見交換を行い、お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合います。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザイン的な視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。 3. 材料、制作上の諸注意、作業の下がれについて確認する。	配布された資料を参考に絵本の魅力を改めて考え理解を深める。	30
2	絵本の表現技法	4つのテーマに基づいていろいろな画材で描く ①花 線描き ペン・色鉛筆で描く ②太陽 くれよんで描く ③風景（山・川・海・空・草原など） 水彩絵の具で描く ぼかし 擦筆など ④私のお弁当 切り絵 ハサミで切る 紙をちぎる マスキングテープなど	図書館や書店などで実際に絵本を手に取り、絵本についての理解を深める。	60
3	〃	〃	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
4	絵本の構成と構造	<絵本の構成>（ストーリーを考える） ①ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 ②キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
5	〃	〃	16ページの展開をイメージしてスケッチを行う。	60
6	表紙の台紙を作る	<表紙の台紙制作> ○絵本の完成形状（タテ型にするかヨコ型にするか） 1) 本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し（接着面・遊び紙・奥付） ③本文16ページ（両面使用のため用紙は8枚） 2) 中身（本文）に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3) 表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。	16ページの展開をイメージしながらスケッチを行う。 自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60
7	〃	〃	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	中身(本文)の検討	本文制作 <ストーリーを考える> ①ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながらラフスケッチを進める。 ②読み手を意識して制作する。	自分の本文に合う表現方法を検討する。	60
9	〃	〃	〃	0
10	中身(本文)の制作	本文制作 <16ページの展開> ・幼児向け絵本の展開(色・文字・図鑑的表現 他) ・年齢制限を撤廃した絵本 等 1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	本文内容・表現の検討と制作の継続	60
11	〃	〃	〃	60
12	〃	〃	〃	30
13	表紙の完成・合本作業 最終確認	○表紙と裏表紙のデザイン 1) 作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2) 中身(本文)に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。 3) 合本作業。最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせてみる。	既存の絵本なども鑑賞し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。	30
14	〃	〃	〃	60
15	まとめ(鑑賞と講評)	○合評会と作品提出 1) 作品発表 お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2) まとめ	感想や意見を受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

授業名	学士基盤プログラムⅠ	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 1単位 必修
担当教員名	◎永瀬 悦子		
開講期	Ⅰ期		
授業の概要	本科目は、短大で修得した学修内容に加えて、2年次提出の学士修得を目的とした学修レポートをまとめ上げるための基礎的な学修生活を構築するための授業である。各自が各々の目的に向かって研究の方向性を確定していくための授業としての位置づけである。		
授業の到達目標	①専攻科の授業になれる。 ②専攻科学生として勉学に励む。 ③学士号、教職免許1種取得に向けて幅広い教養を学ぶ。		
履修条件	幼児教育学科専攻科幼児教育学専攻1年生	成績の 評価方法・基準	①参加度 ②芸術鑑賞講座・教養講座感想文および学修レポートへ向けた研究の進捗度より総合的に判断する。
テキスト	特に指定しない。		
参考書	適時、資料を配布する。		
学生への要望	自己の研究の進捗に関わるので、積極的に参加すること。		
位置付け・水準	GC1905		
ディプロマポリシーとの関係	キャリア形成力		
オフィスタイト	水曜日 IV時限目 14:30~16:00 月曜日 II時限目 10:30~12:00 一柳研究室 825室		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	専攻科についてのガイダンス①	専攻科授業履修届家、芸術鑑賞講座、教養講座、健康診断についての説明		4/10、3限目
2	専攻科についてのガイダンス②	学士取得への意気込みを発表		4/17、3限目
3	創立記念式典	学園行事		4/22、3限目
4	第1回教養講座	学園行事		4/22、3限目
5	専攻科における研究の内容と方法①	自分自身の研究の内容と方向性について考える		4/24、3限目
6	専攻科における研究の内容と方法②	自分自身の研究の内容と方向性について考える		5/1、3限目
7	個人面談	各自研究の進捗状況を報告する		5/8、3限目
8	生活安全講話	学生生活部行事		5/22、3限目
9	個人面談	各自研究の進捗状況を報告する		5/29、3限目
10	個人面談	各自研究の進捗状況を報告する		6/12、3限目
11	個人面談	各自研究の進捗状況を報告する		6/19、3限目
12	研究内容を具体的に進める①	各自の研究内容にしたがって担当教員の指導を受ける		6/26、3限目
13	研究内容を具体的に進める②	各自の研究内容にしたがって担当教員の指導を受ける		7/3、3限目
14	第2回教養講座	学園全体		7/10、3限目
15	研究内容を具体的に進める③	各自の研究内容にしたがって担当教員の指導を受ける		7/17、3限目